第64回 建築士会全国大会 あきた大会



去る令和4年10月14日(金)、「『建築』で挑戦! 郷土のこれから」をテーマに第64回建築士 会全国大会が秋田県秋田市で開催された。

あきた芸術劇場ミルハスを主会場とし、大会式典、記念対談、交流セッションをはじめ充 実したプログラムが催され、3年振りの現地開催で2.700人を超える建築士が集い、盛況の うちに幕を閉じたあきた大会の詳細な報告をする。

第64回 建築士会全国大会「あきた大会」を終えて

淡路孝次

第64回建築士会全国大会あきた大会 主管 一般社団法人秋田県建築士会 会長



令和4年10月14日第64回建築士会全国大会「あきた大会」が 開催されました。

当日はご多用のところ国土交通大臣、林野庁長官、秋田県知事、 秋田市長をはじめ県内市町村長ほか多数のご来賓の皆様のご臨 席を賜り、厚く御礼申し上げます。そしてなによりコロナ禍の中、全国 から2,700名を超える建築士会の会員の皆様がはるばる秋田まで お越し下さったことに心より感謝申し上げます。また当日に至るまでそ れぞれの持ち場で創意工夫を重ね、奮闘して下さった秋田県の会 員の皆様、そしてお力添え頂いたすべての関係者の方々にも御礼申 し上げます。誠にありがとうございました。

さて、当日は会員一同の熱い思いが通じたのか、秋晴れに恵まれ、 見事な紅葉が映える千秋公園前の会場へ途切れることのない人と バスの波が続く光景を目にし、ついにこの日が迎えられたと感無量の 思いが致しました。

秋田名物を余すところなくお楽しみ頂きたく、大迫力のなまはげや 竿燈など秋田の伝統芸能や、100銘柄を超える秋田の美酒と自慢 の新米を用意し、秋田美人と名高い小野小町に由来する市女笠 姿のこまち娘や、日本三大盆踊りとして有名な西馬音内盆踊りの美 しく妖艶な踊り手がお出迎えしました。

唯一の心残りは秋田セッションで「美しすぎる図書館」として名高い国際教養大学図書館の見学を盛り込みましたが、想定を上回る申し込みがあり、希望者全員をお連れすることが叶わなかったことです。この場をお借りしお詫び申し上げるとともに、是非このご縁を次回の楽しみにまた秋田を訪れて頂ければと願っています。

当県での全国大会の開催は41年振りであり、「『建築』で挑戦!郷 土のこれから~け、け、けの秋田でまずかだれ~」のテーマのもと、 平成30年春より準備を進めてまいりました。準備開始当初は、新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより未だかつてない状況での長期戦となることは知る由もありませんでした。コロナ禍の影響を受け準備は思うように進まず、直前まで開催できるか危機感もありましたが、得たこともありました。一つは開催時期がずれたことにより期せずして2022年にオープンしたばかりのあきた芸術劇場ミルハスを会場に使用することができたこと、二つ目は遠方など時間、場所の制約のため参加が難しかった会員が、ZoomなどIT技術の活用により容易に打ち合わせに参加できるようになったことです。不安と焦りの中、会員同士鼓舞し合い、時には先輩から41年前の前回大会の思い出を聞くなど、濃密な時間を過ごせたことは貴重な体験であり、若い世代へ着実にバトンを渡せたのではないかと思っております。

我が郷土秋田県は高齢化率全国第一位の先進県であり、秋田 県建築士会の会員の年代構成も例外ではありません。しかし今大 会を通し、県内の年代性別を問わない多様な建築士が結集し一 つの目標を達成する中で得たつながりや連帯感は大きな収穫となり ました。また、全国から集った多くの仲間と問題意識を共有し、率直 に意見を交換し、さまざまな価値観に触れたことで新たな視点や活 力を頂きました。まさしく今大会のテーマである郷土の未来のために それぞれの果たすべき役割が明確となり、希望の光が灯る大会とな りました。

結びに、次回の第65回「しずおか大会」の成功、全国の建築士の 皆様の一層のご健勝とご活躍、そして「しずおか大会」での再会を 祈念し、御礼のご挨拶とさせて頂きます。誠にありがとうございました。

大会概要

『建築』で挑戦!郷土のこれから ~け、け、けの秋田で まずかだれ~

期日…令和4年10月14日(金)

会場…あきた芸術劇場ミルハス(〒010-0875 秋田市千秋明徳町2-52)

主催…公益社団法人 日本建築士会連合会

共催…建築士会東北ブロック会(青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島)

主管…一般社団法人 秋田県建築士会

後援…国土交通省、秋田県、秋田市





あきた芸術劇場ミルハス

第57回ふくしま大会に参加し、全国一巡7年 後の秋田大会を意識し始めてから丸8年、コ ロナ禍にあって幸運にも地元開催が叶い無事 に大会を終えることができたことに、今安堵と充 実を感じています。

2018(平成30)年に秋田開催が正式決定し て以後、実行委員会を組織し、真っ先にテー マを『建築で挑戦! 郷土のこれから』、我々が 郷土の未来のためにすべきことの認識を共有 し誇りを持って挑戦し続ける決意を発信するこ とに決めました。日時・会場を順次決定し、テー マカラーに元気を示すオレンジを選び、着々と 準備を進めて、まさにこれからという時に広島 大会の延期が決まり、秋田大会も仕切り直し になりました。期せずして工事中だった芸術劇 場ミルハスの利用が叶ったことは幸運でしたが、 翌年広島大会が直前で東京開催になったこと で、貴重な大会視察機会が失われ、多くの会 員がぶっつけ本番で大会に望むこととなったの は大きな誤算でした。

大会への申し込みは嬉しくも2,700名を超え ましたが、コロナの収束が見通せない中、大規 模なキャンセルなども半ば覚悟しながら迎えた 大会でした。

大会の前日、連合会理事・士会長合同会 長会議、建築士フォーラムなどが終了したのは 午後8時で、翌大会当日は早朝の秋田セッショ ン(国際教養大学図書館見学)から、続々とバス に乗り込む参加者の姿に緊張が一気に高まり ました。10会場で行われた交流セッションが終 了時刻を迎える頃には、大会受付や昼食会 場、地酒もっきりコーナーが大いに賑わい始め、 厳選したおもてなし部隊(竿灯、なまはげ、観光 レディ、ゆるキャラ、ダリア等)の出迎えに活気と熱 気が増すなか、メイン会場で記念対談、大会 式典が始まりました。

モンテ・カセム氏と仙田満氏による記念対 談では、郷土の持続可能社会の実現に建築 士として果たすべき役割と挑戦をテーマに対談 が行われ、続く大会式典は、迫力の「なまはげ 太鼓」で幕を開け、表彰など一連の儀式が厳 かに執り行われた後、次期開催県静岡へと大 会旗が引継がれて無事に幕を閉じました。

大交流会は、秋田の魅力を堪能して頂くべ く、県内の全酒蔵から100銘柄の地酒を取り 寄せ、きりたんぽ鍋などの郷土料理と、幽玄優

美な西馬音内盆踊り演舞の披露などに、参加 下さった皆様には満足して頂けたと思っています。

最終日は、県内8地域会が厳選したエクス カーションコースに向けて続々と出発するバス を見送り、無事の帰秋を祈りながら、薄暮の秋 田駅で皆さんの無事の笑顔を確認できた時に は、大会行事のすべての終了を実感し、数年 間に及ぶ実行委員会での苦労が、安堵と充 実感に代わった瞬間でした。

サブテーマ『~け、け、けの秋田でまずかだ れ~』、今大会はコロナ禍で困難だった会員 の繋がりを取り戻すがごとく、全国の建築士の 皆さんの結束に多少なりとも役立てたものと感 じています。とりわけ大会準備を通して醸成さ れた秋田県会員の結束と連帯は、大きな収穫 であり今後の希望の光になりました。

大会の開催にあたり、連合会、建築士会東 北ブロック会、前開催県、関係機関、関係企 業など、多くの方々のご協力に支えられて終え ることができたことに改めて感謝申し上げ、大会 概要の報告と致します。

(あきた大会実行委員会 事務局)



にぎわい交流館AU



秋田市文化創造館



キャッスルホテル



アトリオンビル

主なスケジュール

10月13日(木) 全国大会前日

13:30~14:30 記者会見(キャッスルホテル3F 弥生の間)

15:00~17:00 連合会理事・十会長合同会議(キャッスルホテル4F 矢留の間)

16:50~18:30 全国建築士フォーラム(秋田市文化創造館2F スタジオA)

16:30~18:30 全国ヘリテージマネージャー協議会総会(にぎわい交流館3F 多目的ホール)

10月14日(金)

全国大会

8:45~17:30 総合受付(ミルハス1Fロビー)

10:00~12:00 青年委員会セッション(秋田市文化創造館2F スタジオA)

女性委員会セッション(ミルハスB1F 小ホールB)

景観・街中(空き家)まちづくりセッション(にぎわい交流館 AU3F 多目的ホール)

福祉まちづくりセッション(にぎわい交流館AU4F研修室1、2)

防災まちづくりセッション(ミルハス4F 小ホールA)

歴史まちづくりセッション/第9回全国へリテージマネージャー大会(アトリオン4F音楽ホール)

木の建築賞(にぎわい交流館AU2F展示ホール)

環境部会セッション(キャッスルホテル4F 放光の間2)

木のまちづくりセッション(キャッスルホテル4F 放光の間1)

情報部会セッション(にぎわい交流館AU3F ミュージック工房1)

13:00~14:30 記念対談(ミルハス 大ホール)

15:00~17:00 大会式典(ミルハス 大ホール・中ホール)

17:30~19:30 大交流会(キャッスルホテル 放光の間)

8:50~11:50 秋田セッション…国際教養大学図書館の見学

10:00~16:00 記念展示(ミルハス3F ホワイエ)

10:00~16:00 企業出展(ミルハス1F 多目的スペース)

10月15日(土)

地域交流見学会(エクスカーション)

- Aコース 世界文化遺産と十和田湖・秋田犬・歴史的建物を巡る(鹿角・大館) ※1泊2日
- Bコース 秋田内陸線縦貫鉄道でゆく・紅葉の大自然とマタギの里探訪(北秋田・角館)
- Cコース 木都能代と研究拠点を巡る(能代)
- Dコース 日本海の水平線と世界文化遺産「なまはげ」巡り(男鹿)
- Eコース 国の登録有形文化財を活用した事例に触れる(由利本荘・にかほ)
- Fコース 「みちの〈小京都 角館」~江戸時代の武家町さんぽ~(大仙・角館)
- Gコース 商家のまちなみと内蔵の探訪(横手増田)
- Hコース 白井晟一 秋田時代を探る(湯沢)



建築士フォーラム



秋田士会スタッフ始動



受付



大会式典 場内



ミルハスホール





ふれあい竿灯



昼竿灯 夜竿灯





受付 大会式典 オープニングセレモニー







大交流会 西馬音内 盆踊リ披露



もっきリコーナー



秋田のお酒



ミルハスホール



大会バナー



写真スポット



エクスカーション受付

大会式典

日時…令和4年10月14日(金)15:00~17:00

会場…あきた芸術劇場ミルハス 大ホール・中ホール

参加者…2,159名

大会式典のオープニングは「なまはげ太鼓」。 ユネスコの無形文化遺産にも登録された「男 鹿のナマハゲ」と、日本古来の「和太鼓」とを 融合させた古くて新しい郷土芸能。神山から 降りるが如く「なまはげ」が登場し、繰り出され る荒々しい演舞と怒涛の和太鼓演奏が、会場 を迫力と感動の世界へと誘い、余韻の残る中 で式典の幕が上がりました。

秋田県建築士会・田仲雅美副会長が開 会宣言し、淡路孝次会長が秋田で語り合いま しょうと呼びかけた開催地歓迎挨拶に続き、国 歌斉唱とご逝去会員360名の追悼が行われ、 続いて日本建築士会連合会・近角眞一会長 から、3年振りとなる現地開催の慶びをかみし めた主催者代表挨拶がありました。

県内外のご来賓を代表して国土交通省住 宅局建築指導課長・宿本尚吾様、秋田県副 知事·神部秀行様、秋田市副市長·柿崎武 彦様のお三方からと、林野庁長官・織田央様 のビデオメッセージで、それぞれが抱える課題 に対する建築士の役割への期待と、大会成功 祈念のご祝辞を賜り、ご来賓の紹介、参加会 員数の報告と祝電が披露され、式典は活動 の功績を讃える受賞者表彰へと進みました。

連合会会長表彰は126名、代表として秋田 県・加藤一成氏が登壇。伝統的技能者表彰 は19名、代表として宮城県・加藤正男氏が 登壇。70周年記念永年勤続職員表彰は33 名、代表として山形県・三浦秋夫氏が登壇し、 それぞれの分野での活躍に対し表彰が行われ ました。続いて建築作品賞14作品のうち、大 賞を「風突のケアハウス」東京都・中村拓志 氏が受賞し、青年委員会による地域実践活 動は、最優秀賞を愛媛県建築士会、優秀賞 を北海道建築士会が受賞し、最後にNPO木 の建築フォラムと共催した木の建築大賞受賞 の「道の駅ふたつい」が紹介され、優れた活 動・作品への表彰・顕彰は終了しました。

式典の終盤は、淡路会長と古谷誠章連合 会副会長の両名から大会宣言が発表された のち大会旗の引き継ぎへ。淡路会長から近角 会長、そして次年度開催県の静岡県建築士 会 飯尾清三会長へと大会旗は引き継がれ、 PR動画で静岡県の幾多の見所に想いが及 ぶなか、総勢40余名の会員とともに行った飯 尾会長の決意表明に、しずおか大会への参 加意欲を掻き立てられる思いでした。

最後に秋田県建築士会・照井郁人副会 長が、開催県としての労苦を振り返りながら参 加者・関係者の皆様への感謝で閉会挨拶を 結び、式典は無事に幕を閉じました。不手際 な場面もあったと思いますが、どうにか無事に 終了できたことに対し、関係者の皆様に感謝と 御礼を申し上げます。

(伊藤和博/秋田中央建築士会)



-プニングセレモニー(なまはげ太鼓)



連合会長表彰



大会アピール(古谷連合会副会長、秋田 秋田から静岡へ、大会旗引継ぎ 十会淡路会長)





主催者挨拶(連合会近角会長)



開催地会長挨拶



次期開催地アピール(静岡士会)

記念対談

日時…令和4年10月14日(金)13:00~14:30

会場…あきた芸術劇場ミルハス 大ホール

参加者…1,056名

演題

『秋田杉、そして建築の挑戦』

~「"秋田発、世界標準の大学」を支える「美しすぎる図書館」~

対談者

モンテ・カセム 氏× 仙田 満 氏

国際教養大学 理事長・学長、元立命館アジア太平洋大学 学長

環境建築家、(株)環境デザイン研究所 会長、東京工業大学 名誉教授

聞き手

小原正明 秋田県建築士会 理事・まちづくり委員長

対談サポート

野村朋広氏 (株)環境デザイン研究所 ゼネラルマネージャー







記念対談聴衆席の様子(ミルハス大ホール)

モンテ・カセム先生と仙田満先生による記念対談を開催しました。大会式典会場で約1,150名の皆様にお聴きいただきましたが、全国の建築士会会員の皆様にとっても、大変有意義で示唆に富んだ内容でしたので、その要旨をご紹介いたします。

はじめに

小原 大会テーマ「『建築』で挑戦! 郷土のこれから」は、持続可能な社会実現のため、人々が歴史や文化に誇りを持つことが重要とされていることから、建築士が率先して郷土を

見つめ直し、建築・まちづくりを通じて、これからの郷土の創造に挑戦しようとする決意表明です。対談演題は『秋田杉、そして建築の挑戦』。秋田県には全国に誇れるものが数多あり、秋田杉、AIU国際教養大学に加え、秋田杉を用い、世界標準の大学を支える「中嶋記念図書館」は秋田県のシビックプライドです。そこで、図書館の使い手のカセム先生から大学の特色など、つくり手の仙田先生から設計コンセプトや秋田杉による建築実現手法等について語り合っていただこうとするものです。

大学の理念や特色、 地域との関わり等

カセム 秋田杉、そして建築の挑戦を考えた時、AIUの図書館が語るものが大学を世界水準化したのではないかと感じております。24時間、365日開館の図書館は冊数が多く、電子図書もあるハイブリッド図書館です。大学は理性の固まりで、図書館がそれを象徴しております。仙田先生のおかげで若者に感性を融合してくれたと思います。図書館はコロナ禍で学生は行ける時間を制約され、市民に思った通りに開かれず、大変難儀しました。

基本教育理念の中で今、応用国際教養教 育という第3ステージです。国際教養とは自己 を見つめる、他者と共生する、その力が付くこと によって、人間力が付いた良い社会を創る担 い手になるということで、大学は努力しておりま す。90%近くの学生がキャンパスの中で生活し ており、大学は今、日本のトップ大学の片手で 数えるぐらいの偏差値になっております。その1 つの理由は、入学後、徹底的に宿題をさせるこ とです。それを手助けるものが先生の豊かな空 間です。自分の部屋で勉強できますけど、わざ わざ真夜中でも図書館に来る。だから、24時 間、365日の意味があるんです。世界の仲間と 共創するキャンパス、国境無き環境で英語が 主流言語です。地域住民との協働も根底にあ り、キャンパスにいつでも出入りでき、学生も地 域に出向いております。勉強、経験、感じたこと の研究成果を世界へ発信する力を持っている 大学です。

言語を通じた多文化共生の社会づくりが初 代の中嶋学長の夢でした。国際教養の基礎 のもと、英語を学ぶではなく、英語で学び、表 現し、世界中にそれを伝える。応用国際教養 教育の意味を考えると、思想はリベラルアーツ という人間力を付ける教育の中に広まっていき ますが、それに行動の悔やみと喜びを蓄えて、 たくましい人間をつくることが大学の第3期の 挑戦どころです。応用力と思想の融合です。グ ローバル・スタディーズという分野があり、自然 界の中の生命の位置付け、人間社会がどう歩 んで来たか、過去を深く検証し未来のあるべき 姿を描くことがこの専門分野の挑戦どころです。 AIUの専門分野は学際的専門分野で、建築 も立派な学際的な専門分野です。そのもう少し 広い学問版です。

人類が氷河期の後、約12000年前からの 安定感を、人間が生き方により崩そうとしていま す。気候変動です。安定した気候で勝ち組 だった人間が、自分が成功に至った環境を壊 し始めているところは今後の課題です。気候変 動が我々の根底にある食糧の危機を招きます。

もっと危ない環境に対する損失の一つが、 生物の多様性の損失です。それがコロナ禍を 招いたことは科学者が証明しております。リンと チッソの循環にも赤信号が出ております。これ からヒューマニズムがどうなるかは、賢い機械の 発達によって変わってきます。今、賢くお互いと しゃべっているものが地球の80億の人間社会 の4倍以上で、このマシンがだんだん腎くなり、 ねずみの脳ぐらいと言われております。機械が

人間社会を学んで真似るのではなく、自分が 打ち出したことで囲碁の挑戦で機械が最近、 勝利した。地球環境の変動とデジタル社会の 変革を見据えた上で、今後のビジネスの在り 方を考えることは大学のビジネス領域の挑戦ど ころです。エネルギー問題がその根底にあり、 幸いに秋田県が再エネの中核拠点になりつつ あります。その力を活用し、急に高齢化した社 会の未来を保障することは我々の課題です。9 つの領域ぐらいの中に、学際的に学生が学ん で未来の担い手になればと思っております。健 康寿命の延伸は秋田県の課題で、上小阿仁 村の高齢化率は58.8%です。少子化高齢化 の課題を取り上げ新たな価値を創造すること は大学の課題です。

大学の応用国際教養教育をAILAと呼ん でおり、推進する3つの機構をつくっております。 1つはアクティブラーニングセンターで大学教育 や教授法を小・中・高に持ち運ぶ責任を持つ センター。2番目が滞在型のキャンパス、オンラ イン・オフラインのハイブリッド型のコミュニティを どう形成するかを検証するセンター。3番目が 秋田に新しい価値を生み出すために課題とな る5領域8つのプロジェクトを2022年から 2024年に生み出そうとしております。新しい国 際的なイノベーションハブをつくる要素です。数 多くの国内外の大学、産業界等々と協働しよう と思っております。コロナ禍では大学は大きな 打撃を受け、うちの学生を出すことはできたけれ ど、交換留学生がストップし、約200のパート ナー大学から国の水際対策で交換留学生を 受け入れられなくなった。図書館が語るとすれ ば、22・3万人ぐらいの年間利用者がコロナ禍 では10分の1に減った。やは9図書館が物事 を語る。仙田先生、本当にあの図書館をつくっ ていただいて、ありがとうございました。

図書館の設計コンセプト、 秋田杉による建築実現の ための手法等

小原 仙田先生に「美しすぎる」と称されてお ります図書館の設計コンセプトや秋田杉による 建築実現のための手法等について、お話して いただければと思います。

仙田 私は1975年頃から秋田と関わっており、 一番最初は1980年に完成した県立の児童 会館で、次の年、県営御野場団地を現代計 画研究所の藤本さんとJVでやりました。2000 年に入り、秋田市のプロポーザル第一号の太



モンテ・カセム氏

平山自然学習センターをお手伝いしました。最 近、能代市の市庁舎を新しく免震構造で完成 させました。一番新しいのが2020年の秋田 ノーザンゲートスクエアという、AIU一期生の 水野さんが社長をしているプロバスケットボー ルチームの練習拠点として、IR東日本設計さ んと一緒につくりました。

AIUは2006年からです。こども、若者にとっ て、どう居場所をつくっていくかが私のデザイン の一番の関心事です。AIUのキャンパスは、 元々はミネソタ州立大学が日本校として1990 年から2003年まで活動して、2004年にAIUと して開校したものです。半円形の図書館、講 義棟、丸い多目的ホール、カフェテリア棟がお 手伝いしたところです。アメリカの大学が進出す る前は県の林業試験場で、大変緑が多く、既 存の樹林を残しながら、うまく建物を配置でき ないか考えました。プロポーザルのコンセプトは ブックコロシアム、本とたたかう場。私は、こども の成育環境の研究とデザインが専門ですので、 図書館は平らが良いのもわかるのですが、知 の探求という意味では山や谷があった方が良 いのではないかと考え、段状書架を提案しまし た。このアイデアはここが最初ではなく、以前、 福岡県城島町の図書館、文化センターに小さ な段状書架をつくったら人気の場所になり、居 場所として良いという感じを持ち、ブックコロシア ムをテーマにしたわけです。

キャンパス全体配置は、できるだけ緑を感じ ながら、ディスカッションし、憩いの場ということを 考えました。メインエントランスを入り右側に約 30度のアプローチをそのまま延ばし、視線を遮 らない形で講義棟と図書館棟をつくり、2階の ブリッジ状の廊的空間を併せて提案しました。 プロポーザル時の絵がそのまま実現できた例は これしかないと思っております。段状の裏側が 半円状の空間で隠れ場的なところも生まれまし た。カセム先生から、居心地の良さと学生がど



仙田 満氏

こに居るかわかり合える感じがして、とても安全 と評価をいただきました。

秋田杉を使うことと、一般的なコストが絶対 的な条件でした。全体に、RCの枠の中に木造 が入る入れ子状の構造です。当時は最高高 さ13m、軒高9mが大型木造の限界でした。 県立高校程度の約25万円/㎡と安い単価で す。市場流通材を使った構造で、無落雪屋根 としております。ハイサイドライトを入れ、全体的 に明るい感じが大変重要です。構造設計は山 田憲明さんです。秋田杉と伝統大工技術を積 極的に用いて、繊細で奥行きのある空間をつ くっており、径は5寸から8寸、長さ4mから8m 程度の芯持材が主要材です。周辺部分は RCで、鉄骨、木造で構成しております。重ね 透かし梁で、5寸から8寸ぐらいを繊細な形で 構成しております。中央の柱も約360φで、重 ね梁を取り付けております。全体的に唐傘状に なっております。木造の建物は追い締めができ ることが極めてメンテナンス上も重要で、ディテー ルを検討しております。その結果、AIUのシン ボル的な建築になっていることを設計者として 大変嬉しく思っております。

私としては、段状に書架を並べるだけでなく て、そのうしろ側に閲覧机を入れることがすごく こだわった部分で、1階から2階は約4mある のですが、平均的には1mの段差であります。 幅は2.7mぐらいで、書架の机の高さを1.1mに しております。学生が下を向いた時にはプライ べかな空間、顔を上げると全体が見渡せると いう視線的な設計です。居場所として隠れた 感じで集中でき、顔を上げると全体が見渡せる という関係性です。これが、自分の部屋ではなく、 この場所で勉強したいというモチベーションと なっているのではないかと思います。

1階のところは、杉林がしっかり見えるように 開けております。講義棟はアプローチに沿った 形で緑が連続していくような形で配置しており

ます。多目的ホールはRC造で外側に木を貼っ ております。体育館や約700席の劇場としても 使い、周辺はランニングコースという構成です。 カフェテリア棟は約80席でゼミや学生の自主 的な活動にも使われております。最初のスケッ チの耐力壁を四方に回す形を段々に要素化し て、木造のアーチのような構造に突き詰めまし た。屋根が中央に少し勾配を盛っております。 折線アーチという線材を45度傾けており、角の 部分が一番難しいところです。

私は「遊環構造」を長年、やっていますが、 1985年に学位論文でつくった頃のものを、 AIU図書館の頃から「グレートホール」という めまい空間を中心的なものにしていく形で、少し ずつ変わってきております。

2つの理論が非常に重要だと考えておりま す。1960年、イギリスの精神医学者ジョン・ボ ウルビィのこどもたち、特に赤ちゃんには安心基 地が必要というアタッチメント理論と、景観地理 学者のジェイ・アップルトンの隠れ場理論です。 アタッチメント理論は小さいこどもたちが健全に 育つためには、幼児段階に優しく、こどもたちの 行動を見守る母親などの安全・安心基地が 必要という理論です。安全・安心基地は人だ けでなく、空間にも及ぶと考えております。アップ ルトンの理論は眺望と安全のために身を隠す 環境に居たいという欲望の隠れ場の2つが同 時的に必要と考えております。それをD字体と いう空間構成で、集中と開放の両立、集中とワ ンダリングが創造には必要と考えております。D 字体は集中と開放を両方持つ、安全基地とし ても非常に重要なのではないかと考えており、 学生の居場所としての図書館はD字体的な 空間構成と考えております。今年7月16日に オープンした石川県立図書館はAIU図書館 の一つの展開として、D字体が2つ重なった形 で半円ずれております。AIUに比べ、車椅子で も全体が回遊できるよう展開しております。全 体に、勾配が緩いスロープを設けております。こ れらの考えをまとめて、この10年で5冊ぐらい本 を書いております。

大学を支える秋田杉による 建築の意義など

小原 カセム先生から図書館を使っている立 場、建築学を修学され実務に携わった立場か ら、秋田杉による建築の意義等について、お話 しいただければと思います。

カセム マスの理論で言うと、先生の設計の

成果物は達成感とかインスピレーションとかを 与える空間ではないかと思います。秋田杉の素 材感の温かさは何とも言えません。変化に対し て人間が安心して没頭するだけでなくて、何か 新しいものを気付くわけです。教員の中でも、あ そこに行って、自分を自己回復してきますというこ とを聞きます。マスよりも高度なレベルのニーズ にも先生の建築物が目指しているということを理 論付けたら良いかなと思ったのが一点。二点目 が、時代の流れで技術が変わっていくもので、 設計した時にはまだ、空調のゾーンコンディショ ニングがそんなに浸透していなかったと思いま す。暖かい空気は皆、上に行ってしまうんです。 そこをもう一回分散するためにはどんな工夫を すれば良いか、グリーンエコノミーの時代ではも う少し、環境に配慮してエネルギーコストを減 らせると思います。秋田杉が安心感だけでなく、 非常に優れた機能を果たしていると思います。素 材を機能的、かつ、感性的な価値を含めて考え たら良いと思います。学生は、10時から朝の7時 までの夜間営業の間、平均、毎時間おきに何十 名も来ている。昼も夜も関係なく、あの図書館を 味わって学んでいることが、私が本当に大学を誇 れるものとして思っている根底にあります。

持続可能な社会実現の ために建築が果たす役割等

小原 我が国では2050年カーボンニュートラ ル実現に向けて、省エネ対策を推し進めており ます。また、感染症流行が沈静化しつつあり、 政府の観光振興策が始動したところです。仙田 先生には、持続可能な地域社会実現のための 建築の役割やコロナを経験した未来のあり方な どについて、お話しいただければと思います。

仙田 AIUの図書館の秋田杉の空間は、ほか では味わえないと感じます。こどもたちにとっても、 木造の建物で過ごす、温かさや優しさなどの部 分は、学校で風邪を引く率等が少なくなるエビ デンスも出ていますし、東大の有馬先生のマウス の実験でも人間の環境として木材の持つ環境 調整できるのは何事にも変えられないと感じます。

建築学会会長の時に地球環境・建築憲章 をつくり、もう20年も経っています。しかし、私た ちの地域、国、地球がこの20年間で希望が持 てる形になっていない。ウクライナで戦争してい るところではない。スウェーデンのトゥーンベリさ んが2018年に気候変動の問題に対して抗議 しました。こどもたちが地球の変化を深刻に考 えているのに、大人が応えているか考えてしまい

ます。私自身も、さまざまな制約、要求、矛盾を 抱える中で、我々が次の世代に対して頑張らな ければいけないなと強く思います。我々建築家 がつくる建築がこどもたちの居場所として成立 しているか、地球環境的な問題だけではなく、 精神的な問題も含めて議論していく必要があ るのではないかと思っております。

持続可能な社会実現の ために地域資源や工学が 果たす役割等

小原 カセム先生には、コロナ禍で対面授業 ができずリモートが続いているが、対面でなけ れば得られないことも数多くある。留学生を受 け入れ、送り出している中で、影響を大変多く 受けているという話を聞きました。地域資源の 役割や影響を受けたコロナ後のあり方等につ いて、お話しいただければと思います。

カセム 気候変動条約会議の時、トゥーンベ リ女史たちの心配をしました。あのぐらい問題を 指摘できる人には、技や生き方、実際の雇用 等に関連する解決策を繋げてあげないといけ ない。そうでないと、運動的に終わってしまう。 物事を成し遂げるために5領域のプロジェクト を生み出しているんです。Z世代に解決策、化 石燃料から非化石燃料に移るにしても、大半 の見えないところで雇用や人の生活が成り立っ ている。非化石燃料の経済圏の中でどう新た な経済をつくれるかが本心です。

私の大きな失敗が消費者に理解度を求め ればものが変わると思っていたんです。最近、 わかったのは、消費者がバラバラで大変難し い。投資家が中長期的に投資した先がどうな るかを一生懸命、検証するんです。投資家とと もにビジネス界を変えるしかないと思っておりま す。秋田は再生エネルギーの中核拠点になる ことによりビジネス界を呼び寄せる力があります。 イノベーションハブは、そういうところをやって見 せる場です。一大学とか一企業とかではできな い。社会運動ではなく、社会変革として取り組 めば成し遂げられます。力を貸していただけれ ば、Z世代を提供します。

小原 仙田先生、今のカセム先生のお話を受 けて、感想をお伺いできればと思います。

仙田 AIUでは、カセム先生の思いを実現で きる人材が育っていると思います。ノーザンハピ ネッツの水野さんはプロバスケットチームをつく り、こども食堂までやっている。個性的な人材を 輩出しており、地球環境についてもAIUの理 念が実を結ぶと期待しております。

小原 AIUの第一期卒業生から、そのような 方が生まれているということは、木のある図書館 が多大な貢献し、AIUも発展していると思いま す。最近コロナも少し沈静化してまいりました。 我々は、対処療法を続けて来ただけで、コロナ が生まれて来た根源的なことを理解せず、解 決したわけではない。その辺について、カセム 先生は非常にお詳しいので、少しお話ししてい ただければと思います。

カセム コロナだけではなく数百ぐらいの病原 体が動物から人間にうつる危険度があります。 これは、生物多様性の損失が原因です。大動 物がいなくなると、ウイルスのような病原体が小 動物にうつるんです。大動物より小動物の方 が判断が速く、繁殖が増えるわけです。そこが コントロールできなくなることにより、人間社会で 接点ができ病原体が広まるんです。このメカニ ズムは2012年あたりから論文で引用しておりま す。コスモス国際賞の今年の受賞者バードカ レッジのフェリシア・キーシング先生が学際的 な専門性で検証した結果、はっきりこれだとい うことを証明しました。立派な機関誌に載って いますが、人々のヒットレシオが波を越えてな かったんです。コロナ発生の瞬間に急速に上 がるんです。人間社会は如何におろかかという ことを証明しています。教育の時点でその価値 観を形成して、先を読むことは何かバラ色のも のを語っているということではなくて、本当にこう いうふうにしていけば、成し遂げられるということ を見せてあげなければならない。

たとえば、小さな実験ですけれども、今、気 候が変動している。秋田県は農業県。農業が 打撃を受けます。これを学生諸君に大事だとい うことは講義では伝えられますけど、物を自分の 手で植えて、あのかわいい植物のトマトの実が 出て来た時に大雨でやられちゃうということを体 験することによる学びが、教師なんかより、はる かに大きいです。今、私、葉ものと実ものを植え させているんです、学生に。学生が一緒にやる ことによって、物事を自分の手で変革する体験 が付きます。それが、応用国際教養教育だと 思うんです。

Z世代を世界中の我々の200ぐらいのパー トナー大学の方に広めてあげれば、あのグレ ダ・トゥーンベリの怒りが希望に変えられると思 います。コロナ禍で学びは途切れているんです。 あの感性豊かな環境は味わえなかった。先を 読んで、行動を一歩でも踏み出すことは大変 大切だと思います。オンラインを学校の中で対

面に戻した。戻したら、彼らが人間と人間が接 触する喜びを感じました。そこから、深い友情と 信頼関係が生まれて来るんです。友情と信頼 なしにこれから人間社会が求める社会変革は できないと思っております。

小原 それでは、仙田先生、お願いいたします。 仙田 リモートの良さは実感したけど、限界も 知ったと思います。建築も、行動して触れ合い ながら前に進む学問だと思います。家で画面 を見て学ぶのではなく、その場所で友人らとディ スカッションして、建築的空間や自然の中で出 かけて行こうと思わせる居場所をぜひ、つくって いかなければならないと感じます。

小原 カセム先生から、コロナは生物多様性 の損失の影響であり、学際的な専門研究で検 証されているとお聞きしました。仙田先生から、 建築はリモートでは限界があり、建築は行動し て触れ合い初めてできるとお聞きしました。木や 建築の役割は非常に大きいと感じたところです。 そういう意味で、今回の大会、記念対談の開 催は、大変、意義のあることと思います。

仙田 建築は対面でさまざまな情報交換を通 じて創造性が生まれると思います。リモートで創 造的なディスカッションはできないと感じており、こ のような大会の開催は建築界にとって重要で、 今回の大会の開催をともに喜びたいと思います。 小原 今回の記念対談で仙田先生にお会い できて、生でお話もできました。カセム先生から 最後に、お話をいただけたらと思います。

カセム リモートが全部否定的だと聞こえたか もしれませんけれど、助け船であったことは事実 です。だけど、助けた期間が常軌化し、ニュー ノーマルだと思うと問題が出ると思います。リ モートがなかったら、教育は閉じられてしまいま す。ウクライナの問題でエネルギーや食糧危 機等々を我々が肌で感じるようになったところで、 ウクライナの14人の学生がAIUの講義を受 けたんです。困った人々にはオンラインで助け船 になれると思います。今、秋田県下の大学コン ソーシアムと一緒に、ウクライナの学生をどう呼 び寄せればよいかが協議の課題にはなってお ります。その身近な友を皆さんと同じように対面 で出会う日を首を長くして待っております。今日 招いてくださって、良かったなと。会場の皆さん が我々の話を聞いてくれたことを心から感謝し ております。本当にありがとうございます。

小原 本日は、建築士会、秋田の未来にとっ て、非常に意義深い貴重なお話を伺うことがで きました。カセム先生、仙田先生、ありがとうご ざいました。(小原正明/秋田中央建築士会)

交流セッション

青年委員会セッション

地域実践活動発表会

運営 青年委員会

現地開催としては、3年振りとなる全国大会が 秋田市にて盛大に開催されました。青年セッ ションは、本大会会場である「あきた芸術劇場 ミルハス」の向かいにある「秋田市文化創造 館」。新たに建設されたミルハスも素晴らしい 建物ですが、元は県立美術館であった建物を 「出会い、つくり、はじめる場――。」をコンセプト に、新しい活動を生み出す拠点としてリノベー ションされ、2021年に「秋田市文化創造館」と して生まれ変わった建物です。この施設のコン セプトと、青年委員会のめざすベクトルが見事に リンクし、内部空間しかり、素晴らしい場所でセッ ションが行えたことは、発表者や参加者の方々 においても感慨深いものになったことと思います。

地域実践活動報告会は、全国7ブロックから、 各ブロックの代表となる7つの活動事例を発 表報告する場です。参加者の皆様には、それ ぞれの発表に耳を傾け、自身の活動へのヒント や、新たに取り組んでみようとするきっかけ、ある いは活動意欲を引き立てるカンフル剤となれば という趣旨で開催されます。

結果として、参加者から評価をいただいた 事例に各賞を設けておりますが、活動に優劣 をつけることが目的ではなく、趣旨を重んじて取 り組んでいます。

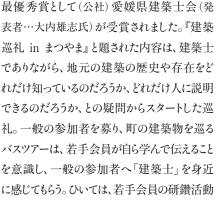
結論から申しますと、このたびの報告会では、

表者…大内雄志氏) が受賞されました。『建築 巡礼 in まつやま』と題された内容は、建築士 でありながら、地元の建築の歴史や存在をど れだけ知っているのだろうか、どれだけ人に説明 できるのだろうか、との疑問からスタートした巡 礼。一般の参加者を募り、町の建築物を巡る バスツアーは、若手会員が自ら学んで伝えること を意識し、一般の参加者へ「建築士」を身近 に感じてもらう。ひいては、若手会員の研鑽活動 となっています。

プレゼンテーションも素晴らしく、自信と誇りを もって活動していることが力強く伝わるものでした。

優秀賞と連合会青年委員会賞をW受賞 されたのは、(公社) 北海道建築士会 (発表者 …小林祐司氏)です。「衣・食・住」――昔か ら身近に表現される言葉ではありますが、子ど もたちの教育に関して、「住」について触れられ ることが少なく、この言葉に違和感を抱いてい た中で、「住」について学べるツールとしてアプリ を開発し、出前授業を拡げている活動です。

今や小学校においてもタブレット端末を取り 入れた教育を進める中で、時流ともいえるアプ リでの活動展開は先進でもあり、無理なく生活 の中に建築教育を浸透できるツールです。まさ に「衣・食・住」が確立される可能性を秘めた ものだと感じました。すでに道内では多くの小





学校から問い合わせがあるようで、着実な成果 が見受けられます。また、このアプリは無償提 供を宣言しており、全国各地にメンターを教養 すれば、スピード感をもって全国に浸透できるも のともされています。

どのブロックの発表も、ブロック代表に相応し く素晴らしいものであり、活動内容は違えど、思 いの根底にあるものは共通していて、めざすとこ ろに対するプロセスがしっかりと組み立てられて いるという印象を受けました。

また、コロナ禍であるにも関わらず、地道な活 動を続けてきた成果は、参加者の方々に深く 響いたことではないかと思います。「コロナ」とい う言葉一つで失われてきたものも多くありますが、 コロナの中でも突き進んできた事例は、今し方、 一番の起爆剤となりえるのではないでしょうか。 (山本道善/(公社)日本建築士会連合会 青年 委員長)

最優秀賞

(公社) 愛媛県建築十会

優秀賞

(公社) 北海道建築士会

連合会青年委員会賞

(公社) 北海道建築士会

奨励賞

- (一社) 宮城県建築士会
- (一社)山梨県建築士会
- (公社)愛知建築士会
- (一社) 奈良県建築士会
- (一社) 佐賀県建築士会



最優秀賞表彰(愛媛県建築士会)



発表風景

日時…令和4年10月14日(金)10:00~12:00 会場…秋田市文化創造館2F スタジオA 参加者…198名

女性委員会セッション

和の空間の魅力を探るふぁいなる~これから~

「魅力ある和の空間ガイドブックWEB版」の活用

運営 女性委員会

司会…矢尾志津江 | 石川県建築士会 コーディネーター…小林淑子 | 連合会女性委員会副委員長 パネリスト…石川久美子 | 宮城県建築士会 草刈めぐみ | 山形県建築士会 櫻井澄子 | 栃木県建築士会 江田裕子 | 石川県建築士会

2018年からHP上に公開している「魅力ある 和の空間ガイドブックWEB版」掲載施設の 紹介とパネルディスカッションを会場とオンライ ンのハイブリッド方式で行った。

施設紹介

[宮城県]

近代日本経済の礎を築いた陸と海の豪商 角田市郷土資料館(旧氏丈邸)・海商の館 旧 亀井邸

明治、大正の時代に海と陸で栄えた豪商の邸 宅。内陸部と沿岸部という対照的な立地であ るが繊細な意匠が多用されている点が共通し ている。旧氏丈邸は和風建築でありながら可 愛らしい照明やステンドグラスなど外国からの 技術やデザインが品良く調和している。旧亀井 邸も同様で、いずれも和と洋の技術とデザイン が絶妙に共存している建物であった。

[山形県]

江戸時代町家の姿を伝える貴重な遺構 芭蕉、清風歴史資料館(旧丸屋・鈴木弥兵衛 家)・旧風間家住宅「丙申堂」

猫間障子や漆喰の防火蔀戸、2階の囲炉裏 など「和の空間」を視点とした取材だったから こその発見や驚きが紹介された。江戸時代の 建物が永く残っている意味を改めて考え、建 物を永く使い受け継いでいくこと、そのための技 術の継承、職人の育成などについて、現代の 空き家問題と重ねて考え直す機会になったと のことであった。

[栃木県]

古き建物を訪ね新らしき「和の空間」活用を知る 日光田母沢御用邸・瀧澤家住宅

明治から昭和の3時代の建築様式が混在し つつ調和して残る田母沢御用邸。現存する明 治・大正期の御用邸としては最大のもので、 書院様式に数寄屋の意匠を取り入れた御学 問所や和と洋の意匠が融合された御座所入 側など、贅沢だが絢爛豪華なわけではない日 本人の美意識を感じる和の空間である。釘隠 しや襖引手、照明などは部屋の用途ごとにデ ザインされている。広大な建屋の銅板葺きの一 枚屋根もぜひ拝見してみたい。

[石川県]

庭屋一如 〜庭と一体化した空間〜 金沢城公園玉泉院丸庭園 玉泉庵・武家屋 敷跡野村家

史実に基づき再現された「庭園」に隣接する 休憩施設として新たに平成の時代に整備され た玉泉庵。庭園を眺めることに拘り、建具の納 まりなど細部にわたり計算されており、その庭の 眺めは圧巻とのこと。木材や石、伝統工芸など 使用する材料の選定や造り上げる過程にも拘 り、技術の継承や本物志向で造り上げたその 心意気を感じるものであった。

パネルディスカッション

冒頭に、オンライン参加者に向けて投票機能を 活用した質問を投げかけた。「ガイドブックを 知っていたか」「紹介された施設で興味のあっ たものは?」など。リアルタイムで即座に集計で きるのもオンラインならではの体験だった。

その後、会場においてコーディネーターから 「ガイドブックの活用」について問いかけ、山形 や宮城ではパネルやパンフレットなどを製作し、 掲載施設等に贈呈、配布した事例が報告さ れた。コロナ禍で士会活動に制限があった中、 活動予算を上手に使った事例である。栃木で も開催予定の子供向けイベントでの活用を予 定しており、このガイドブックが多くの方々の目に 触れ、地域での建築士会活動の良きツールと なってきているようだ。また宮城では、掲載施設 での見学会やお茶会など会員交流活動に発 展した事例もあった。石川ではガイドブックを直 接活用した活動ではないが、その製作を通し て、「和の空間への興味」がより深まり、伝統 工芸や古くからの建築技術について体験を通 して、知る、という活動に繋がっていた。

「魅力ある和の空間」をテーマとした女性委員 会セッションは、これまで、埼玉、北海道、広島、 そして秋田と4回にわたり行ってきた。今回が 『ふぁいなる』である。それぞれの活動の中で、 そして個々の意識の中で『これから』に繋がっ ていくことを願いたい。

(矢尾志津江/石川県建築士会)

日時…令和4年10月14日(金)

会場…あきた芸術劇場ミルハスB1F 小ホールB 参加者…会場 75名、オンライン 23名



会場全景



集合写真



パネルディスカッション (Zoom画面)

景観・街中(空き家)まちづくリセッション

街中の再生まちづくりと景観

運営 景観まちづくり部会、街中(空き家)まちづくり部会

あきた大会において開催された、「景観・街中 (空き家) まちづくりセッション」は、連合会・景 観および街中(空き家)まちづくり部会主管のも と、会場では、連合会まちづくり委員および大 会主催の秋田士会の皆様にお手伝いをいた だき、対面形式で開催されました。

セッションは、高梨良行まちづくり委員の司 会のもと、「街中の再生まちづくりと景観」をテー マとして、事例報告とパネルディスカッションの2 部構成で行われました。

事例報告

まず、埼玉の中野万紀子さんが、『街中の再 生まちづくり~区画整理に立ち向かう~』と題 して、空き家であった深谷市の「旧七ツ梅酒 造」建物群が区画整理事業の予定地に組み 込まれている中、利活用しながら、保存していく 活動が報告され、建物の歴史的価値を再認 識し、地域の活性化のための資源として活用し ながら保存していくことの重要性が示されました。

次に、景観まちづくり部長の豊永信博さん が、『熊本市城下町エリアにおける街中再生 の取り組み』と題して、熊本市古町地区の再 生について、「熊本まちなみトラスト」および「へ リテージマネージャー」の活動報告がされるとと



事例報告の様子

もに、熊本地震からの復興状況や「空き地空 き家 (スポンジ化) 研究会」の活動報告がされ、 まちづくりは、一つの団体だけでなしうるもので はないので、啓発活動や個別文化遺産所有 者への働きかけが必要であると示されました。

3番目に、開催地元である秋田公立美術大 学の菅原香織さんから、『秋田杉を活かした 景観づくり』と題して、1台の杉の家具の写真 から、秋田杉を活かしたまちづくり活動への参 加に結び付き、秋田杉を活用したバス乗り場 の修景整備に結びつき、まちづくりの一端を担 えたとの報告がされました。

パネルディスカッション

休憩を挟み、後半はパネルディスカッションが 行われ、私がコーディネーターを、森崎輝行前 まちづくり委員長がコメンテーターを務め、前半 の事例報告者3名の方々をパネリストとして進 められました。

パネリストから補足説明がされた後、活動に 加わったきっかけや課題および展望が話され ました。

森崎さんからは、事例報告者の真摯な活 動ぶりを感心するとともに、思い入れの強さを感 じた旨のコメントがされました。

また、会場との意見交換では、事例報告に 対する、実践力の高さを評価する声とともに、 全国的に空き家の増加が社会問題化してい るので、当セッションで、より深い討議を求める 意見も出されました。これに対して、次回静岡 大会では、空き家問題に特化したセッションの 開催も視野に入れることとし、盛会裡に終了し ました。

(髙橋康夫/連合会・街中(空き家)部会長)



七ツ梅洒蔵コンサート



KIMOIRIDONの町家活用事業



修復された古町の町並み

日時…10月14日(金)10:00~12:00 会場…にぎわい交流館 AU3F 多目的ホール

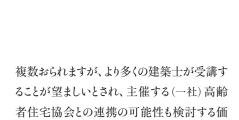
参加者…81名

福祉まちづくリセッション

高齢期の住まいの 改修ガイドライン・等について

した。

運営|福祉まちづくり部会



値があるのではないか、といった意見も出されま

た「高齢期の健康で快適な暮らしのための住 まいの改修ガイドライン」および、改定された「高 齢者・障害者等の円滑な移動等に配慮した 建築設計標準」を題材として取り上げました。 これらの内容について整理するとともに、関連し た各地での取り組み事例を報告いただきなが ら、今後のまちづくりで重要となるポイントを共有 し、今後の展開や課題についての議論が行わ れました。

福祉まちづくりセッションでは、国交省が策定し

「高齢期の健康で快適な 暮らしのための住まいの 改修ガイドライン」について

国交省が2019年に策定した本ガイドラインは、 ①長く健康に暮らせる住まい、②自立して自分 らしく暮らせる住まい、③介護期になっても暮ら せる住まい、④次世代に継承できる良質な住 まい、以上4つの目標を示しています。これらの 目標を達成する改修方法について建築士は、 どう学び、どんな行動が必要とされるのかを探 るため、本ガイドラインに準拠した内容となって いる研修講座について、岐阜・桂川氏からご 報告いただきました。

高齢者住宅協会 『住まいの提案力UP講座 入門編・応用編』について

eラーニング版の「入門編」(無料)とロールプ レイングを行う複数人でのグループ受講の「応 用編・将来計画」(有料)について解説いただ き、多くの気付きが得られる充実した内容となっ ていることが紹介されました。福祉まちづくり部 会には、すでに応用編まで受講されている方も

「高齢者・障害者等の 円滑な移動等に配慮した 建築設計標準」について

バリアフリー法改正関連における近年の流れ を整理するとともに、東京2020オリンピック・パ ラリンピックを契機に2021年に改定された本 設計基準の理解を図るため、そのポイントにつ いて埼玉・本多氏から解説いただきました。ま た、国交省のフォローアップ会議のご報告もい ただき、バリアフリー優良事例の情報収集や 基準等に対する要望事項の聞き入れの可能 性についてもご案内いただきました。

関連する各地からの事例報告

北海道・松本氏から、札幌での取り組みにつ いてご報告いただきました。民間小規模施設 のバリアフリー改修補助事業の改修内容相 談員として、札幌支部から5人の相談員を派 遣している活動をご紹介いただきました。

神奈川・松田氏からは、国交省の出張出 前講座を利用した研修会開催のご報告をい ただきました。法制度・ガイドラインについて直 接国交省の方から解説をいただき、その知識 を踏まえて住宅改修のワークショップを開催す ることも予定されています。医療、介護、福祉と いった専門職連携での開催とあり、先進的な 活動として今後も期待したいと思います。

徳島・河村氏からは、市民と行う鳴門市ユ



ニバーサルデザイン点検会についてご報告を いただきました。行政、建築士、専門家アドバ イザー、市民が実施体制を組み、公共施設等 を訪問してユニバーサルデザインの視点から 点検会、ワークショップを開催。その後改修案 をまとめるという活動を展開しておられます。全 国に広めていきたい非常に有意義な活動と思 われます。

社会から必要とされる存在 に向けて

愛知・石井氏からは、これまで取り組まれてき た医療従事者との連携事業を通して、建築士 がプロフェッショナルとして果たすべき役割や課 題についての気付きが共有され、そこから見え てきた大きなテーマ「社会から必要とされる存 在に向けて」へのヒント、提案が紹介されまし た。今後も進められるであろう多職種連携の場 面で、建築士が担うべきポジションについて非 常に参考になる提言を聞くことができました。

(川口孝男/福祉まちづくり部会長)



各地からの報告発表の様子

日時…10月14日(金)10:00~12:00

会場…にぎわい交流館 AU4F 研修室1、2

参加者…44名

防災まちづくリセッション

20年ぶりに改訂された 「建築士会の災害対応」を考える

運営 防災まちづくり部会

2020 (令和2) 年度に連合会では「災害対策 特別委員会」を設置して、従来の地震災害 対応の指針に風水害対策も加えた「地震風 水害対応・建築士会事前防災活動指針」を 策定している。また、2021 (令和3) 年度に「災 害対策特別委員会」は、連合会の常設専門 委員会として災害対応の司令塔的役割を持 つ「災害対策委員会」として生まれ変わった。 委員会では、2002 (平成14) 年に策定されて から改訂されなかった、建築士会の災害に取 り組む基本姿勢と連合会や各士会が災害時 に対応すべき行動フローをまとめた「建築十会 の災害対応」の全面的な改訂に取り組み、 2022年6月の理事会において承認を得て施 行となっている。

今後は、各士会が発災後、迅速に復旧支 援活動に着手できるように、平常時から事前 の備えとしての防災まちづくり活動を示した「事 前防災活動指針」とともに、この指針の上位 計画として災害対応の理念や要綱、行動フ ローを示した「建築士会の災害対応2022改 訂版」が策定されたことで、防災まちづくり部会 の役割が、ますます重要になると考えている。そ こで、今回のセッションでは、「2022改訂版」の 周知とともに、先導的に各士会が独自に策定し た災害対応マニュアルや防災まちづくり活動の 事例紹介を含めて、改めて災害対応における 連合会と各士会の役割とともに、その関係につ いて議論を行った。

プログラム報告

セッションのプログラムは、まずSt1で、部会長 からセッションの主旨説明とともに、2022・23(令 和4.5) 年度防災まちづくり部会の行動計画に ついて説明を行った。

次に、St2として、このセッションのメインテー マである建築士会の災害に取り組む基本姿 勢とともに、連合会や各士会が災害時に対応 すべき行動フローをまとめた「建築士会の災害 対応2022改訂版」ついて解説を行った。

St3では、3つの士会から防災まちづくり活 動の報告をしていただいた。最初は、徳島士 会の矢部氏から、徳島で策定した「風水害等 による被災住宅復旧マニュアル」の背景と目的 とともに報告があった。次に、神奈川士会の河 原氏から、「被災地住宅相談と被災者生活再 建のための支援制度と支援活動の課題」とし て、神奈川士会が実施した防災シンポの報告 とともに、河原氏自らが被災した時の課題と対 策について具体的な報告があった。最後は、 岡山士会倉敷支部の中村氏から、真備地区 での大きな水害での活動を経験して作成され た「水害に備えて」と「現場応急シート」の報 告があった。

St4では、災害対策副委員長の井上氏を コーディネーターとして、活動報告していただい た3名に加えて、災害対策委員で秋田士会の 佐々木氏とともに、災害対応における連合会と 各士会の役割とともに、今後に向けた課題を話 し合っていただいた。

会場からの発言も含めて、災害支援は、建 築士だけの対応では限界があるので、広範な 関連組織との連携が欠かせない、そこで日頃か らの関係団体との人的交流や情報交換を図 ることが大切であるとの意見が多く寄せられた。 また、セッションで説明した「建築士会の災害 対応2022改訂版」の周知とともに普及を積極 的に進めるべきだとの意見もいただいた。

最後に、部会長として、改訂版を踏まえ各 建築士会において独自のマニュアル作成(カス タマイズ化)に取り組んでいただくようにお願いし

てセッションを終了した。

(佐藤幸好/防災まちづくり部会長)



会場風景



委員長の説明





セッション風景 (2枚ともに)

日時…10月14日(金)10:00~12:00

会場…あきた芸術劇場ミルハス4F 小ホール A

参加者…68名

歴史まちづくリセッション/第9回全国へリテージマネージャー大会

歴史的建造物と各地域のまちづくり

秋田の歴史まちづくりにかける思い・その取り組み

運営 | 歴史まちづくり部会/全国ヘリテージマネージャーネットワーク協議会

歴史まちづくりセッションと全国ヘリテージマネー ジャー (HM) 大会の共同開催となる本セッション は、秋田市内のアトリオン音楽ホールを会場とし て開催された。司会は全国ヘリテージマネー ジャーネットワーク協議会(HMN協議会)の内田 美知留副委員長が務め、後藤治HMN協議会 運営委員長の開会挨拶、歴史まちづくり部会長 の趣旨説明に引き続き、4人のパネリストが、県 内各地の歴史まちづくりの取り組みを紹介した。

事例発表

[小坂町] 「歴史的建造物を活用した『明治 百年通り』の整備と産業博物タウン構想」亀 沢修氏(HM/小坂町町史編さん室)

小坂町は日本三大銅山「小坂鉱山」のまちとして 大きく発展した。活用なくして保存なし!を合言葉 に、明治百年通りの整備など、近代化遺産を保 存・活用している。小坂鉱山の厚生施設(劇場) として開館した康楽館の修復、旧小坂鉱山事務 所の移築・復原、旧小坂鉄道小坂駅の施設を 再生したレールパークなどの事例を紹介。

[大館市] 「大館市の歴史まちづくリ~官民 協働で物語をつくる」安達真由美氏(HM/ 大館・北秋田建築士会)

県内で初めて認定を受けた大館市歴史的風 致維持向上計画にHM 養成講座が組み込ま れ、26人が認定。市職員を含めた有志で「大 館歴史的建造物研究会」を発足した。地域 別建物調査や「桜櫓館」耐震改修事業への

参加と協力など、市と建築士会が協力し合う 官民協働の活動により、今まで関心のなかっ た多くの市民や議会から、歴史的建築物の保 存や、まちづくりへの活用を好意的に支持して いただけるようになった。

「秋田市」「秋田市新屋の歴史的建造物と景 観まちづくり」田畑治夫氏(HM/秋田中央建 築士会/秋田市役所)

新屋のまちづくりには秋田公立美術大学が深 く関わってきた。新屋表町通りの景観まちづくり の提案から景観保全が始まり、まちづくりの拠 点「新屋参画屋」や新屋ガラス工房がオープ ン。町家保存をめぐる動きとしては、改修ワーク ショップ、カフェ・ショップスペースの整備など があり、町家の価値を見直すきっかけになった。

[横手市]「増田重伝建地区におけるヘリテー ジマネージャーの関わり方」鈴石博実氏(HM /横手建築士会/増田まちなみ研究会)

増田まちなみ研究会は2013年に発足。研究 会会員向けのスキルアップ講習会、伝建地区 における修理修景相談会、修理技術者講習 会などの活動で、同年末に重伝建となった横 手市増田の修理・修景工事を着実に推進し てきた。県内初のHM養成講座は増田まちな み研究会が主体となり実行委員会を立ち上 げ、2014年度に横手市で開催。今後は子供 たちや市民が歴史的建造物に興味を持っても らう活動もHMの役割と思う。

意見交換

後半の意見交換では、会場からの質問・意見 に答える形でセッションが進められた。行政の 全面的協力姿勢が感じられるとの意見に対し ては、鈴石氏が、市との協力関係や活動費へ の助成を説明した一方、次の展開も考えない といけない時期と答え、安達氏は、大館は素晴 らしいと熱意をもって積極的に話す姿勢が好 意的な支持になったと思うと答えた。地元大学 とのコラボレーションに関しては、田畑氏が、学 生・地元市民の双方にまちづくりへの参加意 識があると説明した。後藤委員長は、建築士 会は多様な業種の方が会員として参加してお り、歴史まちづくりに関わるのにふさわしいと話し、 建築士に限らず、大学・職人などその他の方々 との連携を建築士会の中で位置づけ、拡がり を持って歴史まちづくり・HMの活動を進めて いくことが大事とコメントした。最後に、HMN協 議会の中西重裕副委員長が、しっかり地域を 見直して地域の宝(文化・建造物)を発掘し、 今後の展望としては、災害時にも全員が協力 して地域の文化を再生していく動きになればと 思う、と総括して、セッションを終了した。

(青木伊知郎/歴史まちづくり部会長)

日時… 10月14日(金)10:00~12:00

会場…アトリオン4F 音楽ホール

参加者…157名



セッション会場風景



小坂町(康楽館)



大館市(桜櫓館)



秋田市新屋(旧国立新屋倉庫)



横手市増田(重伝建地区)

木の建築賞

第16回木の建築賞大会報告と東北なるもの

パネリスト…安藤邦庸 (株)里山建築研究所 主宰

三澤文子 (有)エムズ建築設計事務所 代表

泉幸甫 (有)泉幸甫建築研究所 代表

山辺豊彦 山辺構造設計事務所代表

パネリスト・講演…西方里見|(有)西方設計代表 司会…小疇友子 小疇友子建築設計事務所 代表







木の建築賞パネルディスカッション

まず初めに、昨年度開催された第16回木の 建築賞の大会報告が行われた。応募総数40 組、一次選考通過作品・活動が21組、二次 選考通過作品・活動が11組だった。その後 選考委員による現地審査が行われ、最終選 考により受賞者が決定した。今年度の木の建 築大賞は「道の駅ふたつい」、応募責任者は 設計チーム木協同組合の西方里見さんで、 今回のセッションで大賞作品のプレゼンが行 われた。

第16回木の建築賞 受賞作品

木の建築大賞

道の駅ふたつい

木の建築賞(選考委員特別賞・メンバーズチョ イス賞)

東松島市立宮野森小学校

木の建築賞(選考委員特別賞)

大槌町 文化交流センター 「おしゃっち」

木の活動賞

鶴岡市立朝日中学校

木の建築賞(木の住宅賞)

川谷のアトリエ住宅

木の建築賞(ムクファースト崇秀記念賞)

英照院本堂・山門

木の建築賞(建築士会東北ブロック会賞)

ノーザンステーションゲート秋田

木の建築賞(ウッドフューチャー賞)

美郷アトリエ

木の建築賞

陸前高田市立気仙小学校 道の駅たのはた思惟の風 はじまりの美術館

第16回木の建築大賞受賞作品発表 「道の駅 ふたつい」

米代川と七座山を背に来訪者を迎えてくれる 道の駅ふたつい。エントランスのアーチトラスは 長さ3m以下の通直製材を用い、3列の梁を 2列の飼木を介して、嵌合接合により一体化し ている。また、物販施設には方杖連続トラス、レ ストラン棟には挟み張弦トラスを用い、変化のあ る空間をつくっている。

戦後植林された樹齢60年~80年生の秋 田杉が増加し、新たな需要開拓が求められて いる。この大径木の付加価値を高めるために、 平角材や幅広の平割材を無垢のまま有効活 用することを考えた。無垢材使用のため防火壁 を設置し、燃え代不要の軸組現しとした。外装 は耐候性が大きい杉の赤身材のみを使用し、 杉外装材と窓との取り合いなどは、耐久性が 劣るシーリングを使わないオープンジョイント工 法としている。省エネルギー木造建築は持続 可能な社会に寄与し、温熱省エネルギー性 能はQ値1.2W/m2·Kの高性能である。

パネルディスカッション①「大賞をめぐって~ 選考の裏側~」

今回の選考にあたり、大賞をめぐって作品が 争った裏側が話された。まずは三澤委員長よ り経緯の説明があり、その後、それぞれの選考 委員により選考内容が話された。作品一つひ とつに見られる新しい発想やチャレンジ、また、 設計だけでなく、施工やその裏側で頑張ってい るたくさんの人々の努力や熱意が感じられ、甲 乙つけがたい作品ばかりで審査が難航した。 特に今回大賞を受賞した作品や、選考委員 特別賞を受賞した作品は、それぞれ違った視

点での評価となり、選考委員の意見も別れた。 毎回選考には苦労があり、近年は回を重ねる たびにレベルの高い作品が増えてきた。木造 建築の変化と発展を見ることができ、今後益々 期待の高まる大会となっている。

パネルディスカッション②「東北なるもの」

木の建築賞は7つの地域に別れて開催されて いることから、その地域ごとでまったく違った作 品や活動を見ることができる。今回は東北大会 ということで、寒冷多雪地域での特徴や、震災 復興関連の作品、また、秋田など林産地なら ではの作品や活動が多く見られた。今回大賞 を受賞した作品は、協同組合での設計チーム が組まれ、木を知り尽くした設計者や温熱省 エネ性能に精通した設計者などが力を合わせ、 また、地元の大工職人の技量を生かした構造 加工を考えた構造設計者のアイデアなど、東 北地域ならではの特徴が現れていることに注目 が集まり高く評価された。木の建築はデザイン や機能、性能だけでなく、建物ができるまでの ストーリーが大切で、その後の建物の使われ 方にも関係してくると考えている。これからも東北 ならではの木の建築を広めてもらいたい。

2023年度の木の建築賞告知

2023年度の木の建築賞は、九州・沖縄地域 が対象。詳しくは木の建築フォラムホームペー ジ (http://www.forum.or.jp) をご覧ください。

日時…10月14日(金)10:00~12:00

会場…にぎわい交流館 AU2F 展示ホール

参加者…90名

環境部会セッション

SDGsと心地よい家づくり SDGs part3 地域に適合した家づくり

運営 環境部会

SDGsと建築士のPart3として、建築士SDGs 建築宣言(環境部会案)を提示し、「つくる楽し さ、つかう楽しさ」があり、心地よい住宅づくりに ついて、秋田県での先進的な住宅設計事例 や秋田県建築士会の親子体験学習プロジェク トを紹介し、討議を林美樹氏の司会で進めた。

基調講演

SDGsのまちづくりと建築への期待 門脇光浩(元仙北市長、(一社)市民活動あき た理事長)

仙北市は、生活者目線からの持続可能な観 光産業と地域づくりを進め、第1期SDGs未 来都市に選定された。新型コロナ禍での在宅 ワーク等で新しいワークライフステージの可能 性を過疎地域のチャンスに変えたい。建築は 地域経済の牽引力であり、リフォーム事業はそ れを実証している。森林保全と育成の課題を 見据え地産木材で家を建てる取り組みが重 要である。「身土不二」の理念の家づくりを進め、 コミュニティを維持するための住居の果たす役 割を空き家の資源化も含めて、建築業界と地 域・行政の協働が重要である。

事例・プロジェクト紹介

建築士のSDGsへの貢献(連合会のSDGs行 動方針について)

中村 勉 (環境部会長)

環境部会でのオンラインWSによりまとめた7つ のスケールでのSDGs行動方針を提示した。

① [人・住まい] 小さな子どもから大人まで、 一人ひとりに安心で快適な暮らしの空間を提 供する。② [建築(群)] 地域の建築文化を尊 重し、何世代にもわたって安心して使える建築 (群)を創造する。③ [街・集落] 建築により魅 力的なコミュニティ空間をつくり、みんなが住み 続けられる街・集落を育てる。④ [都市・農村] 身近な都市のよさ、農村のよさを学びあい、相 互の密接につながる関係を構築する。⑤ [生 態地域] 暮らしや建築のための素材、空気や 水、エネルギーを提供する生態地域を大事に する。⑥ [自治体] 安心で安全な暮らしや住ま いを守り育てるために、自治体と一体になって 貢献する。⑦ [地球] 世界の人々と連携・協力 し、だれ一人とり残さず、地球生態系の保全と 再生に貢献する。

サスティナブル社会に向けた建築について 佐藤欣裕(もるくす建築社)

氏の作品を、人間の身体性・恒常性・体内温 度の視点を含めた人間・環境設計の特徴から 解説した。自然エネルギー・蓄熱・断熱の相互 関係を科学技術的に理解し、「日射、光、熱、 気温の年変動・日変動、気圧、湿度、風、波、 乾燥、湿潤など」の環境要素を組み込んだ建 築デザインによる感動と快適性について作品を 介して解説し、古民家のリノベーションでは「サー キュラーエコノミー・アップサイクル」での建築に よる地域循環経済行動の重要性を指摘した。

秋田の建築文化をつなぐ住宅 田中勝昭(アトリエあすか)

我が町「能代市二ツ井町」は「天然秋田杉」 の里で、かつては人口の約8割が林材業や木 工業に携わり、天然秋田杉と米による心豊か な地域循環型社会であった。切り妻屋根や外 壁に見せた天秤梁の統一性のある美しい街 並みであった。「結いっこ」(「結い」)での建方、 萱屋根の葺き替え、共有林や排水路の共同 手入れの精神をつなぎ、現代型「よいっこ」 (①地元の「もの」を使う、②地場の「ひと」で造る、 ③地域の「きずな」を強める) でまちを再生する 活動としての設計作品を紹介した。地元中学 生にも秋田杉と木組みの良さを広め、若い大



環境部会セッション風景

工職人への伝統技術の継承、一人でも多くの 人に呼びかけていきたい。

親子体験学習「気持ちのいい家をつくろう」 プロジェクト

戸嶋真紀子(秋田県建築士会)

県内各地での小学生を対象に、子どもたちの 「気持ちのいい家」の構想を建築士がサポート してカタチにする活動である。児童のカタチへ の思いは、建築士の組立や素材選びなどのア ドバイスを受けグループ作品となり、プレゼン後、 公民館などに展示し、自宅で改修を重ねて、よ り、気持ちのいい家、になっていく。2003年の 建築士の東北北三県女性委員会合同での 小学5年生へのアンケート調査「『気持ちのい い家』ってなあに?」をきっかけに、子どもたちの 思いをカタチにする事業となり進めてきた。

ディスカッション

糸長の司会で、「①部会の提示した建築士 SDGs 行動方針について」、「②気持ち良い住 宅を地域でつくるために、何が求められる」の 論点で進めた。提示されたSDGs 行動方針 案を会として宣言することは同意された。門脇 氏は地域の大工さんと連携した空家活用・リ ノベーション、佐藤氏は改修を地域産業にする こと、手嶋氏は地元の土や木を生かすこと、田 中氏は木を核とした循環型地域づくりにより新 しい共有財づくりへの期待がSDGsとの関連 で語られた。篠節子がセミナーの意義、連合 会のSDGs行動指針の早急の提示への期待、 建築士のCO2排出量計算能力の緊急性を 指摘してまとめた。 (糸長浩司/環境部会)

日時…令和4年10月14日(金)10:00~12:00 会場…キャッスルホテル4F 放光の間2

参加者…33名

木のまちづくり部会セッション

テーマ

林業・ウッドショック・木造建築

運営 木のまちづくり部会

部会として初めてのセッションで、部会委員、副部会長および部会長による検討会を行った。そのためブロック代表の部会委員は、ブロック会議を開き地域リーダーの意見を聴くなど全体化を図った。結果として、これまでの話題を集約して上掲のテーマとし、4つの話題を決め、第2回アンケート状況調査を加えることにした。

セッション開始前には会場一杯に参加者が 集まり、Zoom参加もあり、にぎやかな開会と なった。関係者が集って、部会のセッションを 開くよろこびの部会長挨拶に続き、5人の発表 が行われた。

発表

「木のまちづくり部会活動についての状況調査」 伏見康司氏(副部会長、奈良)

①地域産材の活用促進、②中大規模建築への取り組み、③気候風土通用住宅の各地での基準づくりの状況、など重要課題に絞って簡単に発表された。実際のアンケート項目は多く、回答に自由記述もあり、多様な取り組みや意見が得られているので、今後の詳細な報告とともに、部会活動に活かされることが期待される。

「林業と木材について」

古川 保氏(部会員、熊本)

ウッドショック以降、原木価格は約3割値上が りしている。一方、木材末端価格は約2倍に値 上りしている不具合が指摘された。木材はA 材、B材、C材、D材など品質に応じた売り方・ 買い方・使い方があり、柱や梁の無垢製材、 集成材、CLT材、合板などへの使い分けを建築士が認識し、仕様書に表現しなければならない。気候風土適応住宅の基準づくりに関連し、CO2排出物基準制度は外付の断熱性能基準だけでは不足であると指摘された。

「ウッドショックのこれまでとこれから」

木村 司氏(埼玉県木造施設推進協議会 理事)

欧州におけるCLTの普及で値上がりした欧州材を日本の商社が「買負け」して在庫が1/3程になり、ウッドショックが発生し、国産材への需要が増加した。住宅用流通材として、特に横架材の国産化が進行し、無垢材・集成材・杉と桧・カラマツを合成した集成材の開発が進んでいる。基本設計段階から、山や製材所と直接対話して、調達可能な材で設計する必要がある。4面薄背割と内部割れのない減圧乾燥の情報提供があった。

「中大規模木造建築物での地域産材活用と JAS 材の課題」

安田年一氏(岡山地域リーダー)

岡山県には17のJAS認定工場があったが、3 工場が更新していない。JAS工場は高温セット乾燥材を供給しているが、内部割れが多く、金物接合に不安を感じる。当面、短納期依頼を避け、高周波真空乾燥装置で40℃の中温域乾燥の内部割れのない、香りと艶のある材を使う予定である。ただし縦振動ヤング係数測定や含水率検査、材面観察を実施することにしている。

「中大規模木造建築における担い手育成の 現状」

加来照彦氏(部会員、東京)

2010年、公共建築物の木材利用推進法の公布および施行以来、公益財団や一般社団、あるいはNPOなどの各種の研究機関や業界団体が行ってきた担い手育成支援活動を丁寧に紹介し、最近の国交省と建築士会連合会、地方自治体と各建築士会の協定にも触れ、関東甲信越ブロックでの講習会等の進捗状況が紹介された。できるだけ早く、多くの建築士が木造化・木質化の体験の機会を得られることを期待する。

質疑応答

会場から中高層木造建築の設計に際し、木材の性能表示が重要で、やはりJAS材の使用を重視したい。部材の強度、乾燥、材面の性能の重要性が指摘され、部材の品質管理の難しさが浮上した。JAS相当材の扱いは特記仕様書への記載が必要と確認された。

木材の調達を含めたこれらの難問も、山や製材所と設計者が顔の見える関係をつくり、直接話し合うことで解決できるという木村司氏の貴重な意見が出て、一応のまとまりとなった。

(三井所清典/木のまちづくり部会長)

日時…10月14日(金)10:00~12:00

会場…キャッスルホテル4F 放光の間1

参加者…48名







古川 保氏 木村 司氏



チェニー 安田年-



安田年一氏



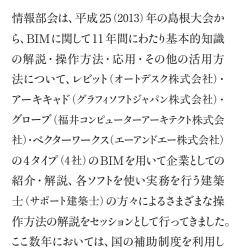
加来照彦氏

情報部会セッション

イチから学ぶBIMと オンラインツール

~建築士の働き方をプチ改善しよう~

運営情報部会



今回のセッションにおいては、BIMを用いた 建物の設計だけでなく、確認申請における法 規制をどのようにしてチェックしていくのか、 チェックするためにどのような方法を用いるのか について実際に操作している状態を見ていた

たBIM推進事業としての地方創生BIM講習

会も併せて行っております。

だきました。特に建物のどの部分が斜線制限 にかかるのか、建物の外壁に面するどの建具 が延焼ラインにかかるのかといった点について 紹介しました。

2次元のCADでは、平面図・立面図・断 面図それぞれにチェックを行い、細かい部分で のチェックが困難なケースもありましたがBIM を活用することで立体的にチェックが可能とな り、見落としやミスをなくすことになる。また、建築 士がチェックに用いるだけでなく、建築のプロで はない依頼者等への説明を行う際に立体を 用いることで理解してもらいやすくなる、といった 利点があります。

最近では、意匠だけではなく構造・設備の 設計にもBIMが用いられており、よくある意匠と 構造・設備との食い違いの発見にも役立つも のとなっています。たとえば、意匠図と構造図を 重ね合わせることで壁から構造体が飛び出し ているのが発見でき、設備図と重ね合わせるこ



とで縦の配管がPSを通っていなかったことが わかったりします。

このほかには、身近なツールを用いたBIM の活用も行われています。たとえば、立体的な スキャンデータを用いて斜面の表現などを簡 単にできたり、点群を用いて既存建物を再現 するといったような活用もなされています。これら により新築はもちろん、増築・改築・模様替え・ リノベーションにも活用されています。

一つのセッションの限られた時間内において これまでに述べたすべてのことが紹介できてい るわけではないのですが、今後、BIMに興味 を持ち仕事のツールとして導入するきっかけに なればよいと考えています。

また、昨年の広島大会(東京開催)・今回の 秋田大会では、セッション会場に来ていただい た方のみを対象とするのではなく、Zoomを用 いて会場に来られない方に対してもセッション に参加していただきました。コロナがまだまだ終 息しない中、会場に足を運べない方や限られ た短い時間であれば参加できる方も対象とし たセッションが開催できたと思います。

情報部会としては、今後もBIMの普及に関 する活動を継続していくとともに、全国の会員の 皆様にとって役立つ情報提供を行っていきた いと考えております。

(田中克之/情報部会 委員)



鹿児島で実施した「BIM講習会」の様子

日時…令和4年10月14日(金)10:00~12:00

会場…にぎわい交流館 AU3F ミュージック工房1

参加者…23名

大交流会

日時…令和4年10月14日(金)17:30~19:30

会場…キャッスルホテル 放光の間

参加者…773名

3年ぶりの参加者全員対面による大交流会は 約800人にご参加いただき、秋田キャッスルホ テル4階放光の間で開催いたしました。コロナ ウイルス感染症対策を徹底することから会場入 り口前での混雑も予想しておりましたが、スムー ズに入場して頂くことができました。ウェルカムド リンクでお迎えし、開会までは「あきた大会」 PRビデオをご鑑賞いただきました。

定刻に開宴となり秋田県建築士会会長・ 淡路孝次の挨拶のあと、鏡開きは近角連合会 会長と淡路秋田県会長、そこに小町娘も加わ り、さらにはなまはげも乱入(?)し賑やかな乾杯 が地酒にて行われました。

テーブルには「あきたこまちのおむすび」「い

ぶりがっこ」をご用意し、ビュッフェコーナーに は「秋田のおもてなし料理」、屋台コーナーに は「稲庭うどん」や「きりたんぽ鍋」、「秋田牛ロー ストビーフ」等の郷土料理を取り揃えました。ま た、酒の国秋田を堪能していただくために「もっ きりコーナー」を3カ所に設け、県内34の蔵元 から自慢の銘柄100本をご用意し楽しい時間 を過ごして頂きました。アトラクションとして「西 馬音内盆踊り」をご披露しました。勇壮な囃子 の中、あでやかな端縫いの衣装で踊り手が登 場し、しなやかな手振りと足運びが織りなす幻 想的な舞に会場が盛り上がりました。

その後、次年度開催の静岡県建築士会の 飯尾会長からの挨拶と皆様による大会アピー

ルがあり、来年の再会を約束いたしました。楽 しい時間は早いもので、最後に秋田県建築士 会石川副会長の万歳の音頭で閉会となり、和 やかな雰囲気の中終了となりました。

会場の規模の都合により秋田士会会員が 皆様と交流ができなかったことが大変残念で ありました。スタッフ一同、おもてなしの心を持っ て対応させていただいたつもりですが、至らぬ 点も多々あったことかと思います。ご参加いただ いた皆様が、秋田を堪能していただけたのであ れば幸いです。ご参加ありがとうございました。

(谷口満州美/秋田中央建築士会)



鏡開き(乾杯)



大交流会会場(3年振りの対面開催)



余興・西馬音内盆踊り



しずおか大会PR

企業出展・記念展示・飲食コーナー

企業出展は16社。エントランスロビーに13社、 建物外正面に3社の配置とし展示いたしまし た。各社とも、それぞれのぼり旗や展示等に工 夫を凝らしたレイアウトで多くの参加者にアピー ルしていました。

記念展示は3階ホワイエにて、第2回日本 建築士会連合会建築作品賞入賞作品、「伝



統技能者表彰者」仕事風景紹介、女性委員 会全国女性建築士連絡協議会、秋田県建 築士会活動紹介、また秋田市文化創造館2 階に青年委員会のパネル展示を行い、多くの 皆様に見て頂きました。

飲食コーナーは別棟に配置し、入口には秋 田の地酒「もっきりコーナー」を設けました。午



企業展示

前中から多くのご利用を頂き、秋田県内のお 酒を飲み比べしている方もおられ大変にぎわい ました。

大交流会会場近くには11台のキッチンカー を設置し、食事をとりながら竿燈の演技を観賞 された方も多くおられました。

(佐藤隆志/湯沢雄勝建築士会)



飲食コーナー

地域交流見学会(エクスカーション)

Aコース 世界文化遺産と十和田湖・ 秋田犬・歴史的建物を巡る 参加者…30名

1日目…本コースは、県の東北側に位置する青 森県境の3市を巡るものでした。コース内で唯 一1泊2日の長旅でしたが、道中の景色は目に 優しい濃緑のスギ林が続きました。初めに訪 れた北秋田市では、学芸員さんのガイドのもと、 昨年ユネスコ世界文化遺産に登録された「伊 勢堂岱遺跡」とその出土品を展示する縄文館 を見学し、北東北の縄文文化に触れました。

そこから東に向かった大館市では、「ニプロ ハチ公樹海ドーム」「桜櫓館」「大館八幡神 社」「鳥潟会館」を訪れました。昭和の香りが 漂う「桜櫓館」では、まちづくり課長や当支部 のヘリテージマネージャーから市の歴まち政 策・桜櫓館の耐震補強について説明を受け、 昼食には大館名物「鶏めし弁当」を堪能。お なかも満たされたところで、3匹のかわいい秋田 犬とのふれあいタイムとなりました。

大館市の日程を終え、明日に備えて鹿角市 の十和田ホテルへと向かいました。

(石川成・熊谷昌剛/大館北秋田建築士会)

2日目…紅葉も半ば十和田湖を後に明治時代 より鉱山の技術の先端担っていた小坂町へ。 旧小坂鉱山事務所(国重要文化財指定)では 木造螺旋階段に魅了され、現存する日本最古 の木造芝居小屋・康楽館(国重要文化財指 定)を見学。東北の小さな町で高いレベルの 文化をもたらした経済力に感心しながら小坂 レールパークにてレールバイクに乗車、しばし 童心に帰り楽しみました。

最後はユネスコ登録・鹿角市大湯ストン サークル (国内最大のストンサークル) 環状列石 中央の立石(日時計説)などを見て古代の暮ら しと、祭祀の場を想像しながら当時の集団を 纏めあげた大きなパワーを感じ古代に思いを 馳せました。「歴史、文化、季節」を感じ、旅の 良い思い出をつくって頂いたと思います。

(中西純悦/鹿角建築士会)

輌2台を貸し切っての至福の旅へ。角館駅ま での到着の間、地元食材による「ごっつお(ご ちそう) 玉手箱弁当」に舌鼓を打ち、現役マタ ギの話を聞きながら、車窓からの景色を楽しみ ました。満足感を得ながら、角館からは再びバ スに乗車し帰路についたのでした。 (小笠原寿·松橋雅子/大館·北秋田建築士会)

あに」で休憩し、途中乗車した地元の山岳会

と企業の方から「森吉の魅力」と「秋田の木」

について講話を頂きながら森吉山山麓駅へ到

着。朝からの雨は上がったものの濃い霧のた

め、山頂駅で遠景を眺めることはできませんで

したが、ゴンドラの乗車中には真っ盛りの紅葉

の情景を楽しむことができた他、駅舎前では

「とれたてキノコ汁」が振る舞われ、冷えた体を

下山し、国重要文化財の「阿仁異人館」・

伝承館を見学の後、阿仁合駅からは観光車

Cコース 木都能代と研究拠点を巡る

参加者…30名

温めてくれました。

バスガイドさんが車内で言うとおり、一般の観 光コースと違い、レアなコースでした。

Bコース 秋田内陸縦貫鉄道でゆく・ 紅葉の大自然とマタギの里探訪 参加者…61名

本コースは、バス2台で秋田県の山間部へ。 秋田杉の巨木を構造材とした「道の駅かみこ



Aコース(桜櫓館)



Aコース (樹海ドーム)



Aコース (康楽館)



Aコース(旧小坂鉱山事務所)



Bコース(森吉山ゴンドラ駅)



Bコース (あきた犬とふれ合い)



Bコース (阿仁異人館・伝承館)



Bコース (内陸線車内)



Cコース(木材高度加工研究所)



Cコース (旧料亭金勇)



Cコース (旧料亭金勇 内部見学)



Cコース(道の駅ふたつい)

木高研ではさっそく建築の「け」がお出迎え。森 林から流通・開発・利用システム、資源活用まで、 本館や試験棟、実験棟等の施設見学で建築の 役割を体感できたと思います。

快晴になった後に向かったのは旧料亭「金勇」。 天然秋田杉が張られた天井は金勇ガイドさんが 言う通り誰も触ることはできません(一番大きな笑い が起きてました)。他に長欄間の技術や、廊下に敷 かれた長さ25mの継ぎ目のない畳の上敷きに感 動の様子でした。昼食は能代地域で食される事 の多い「だまこもち鍋」を2階大広間で黙食。お酒 類を提供すれば少し賑わえたかな、と振り返ってま すが、食べての「け」を味わって頂きました。

ここから時間の都合でコース変更です。先に 「道の駅ふたつい」に寄って、時間があれば「きみ まち阪」散策ということを説明。この道の駅は2018 (平成30)年のオープン以来、県内外から年間 100万人の訪問者がある人気の施設です。駅長 さんのお願いの挨拶もあってか、皆さんお土産を たくさん買われておりました。ここが来てけれの「け」 です。以上、Cコースの「け、け、け」でした。

(大高 勇/能代山本建築士会)

Dコース 日本海の水平線と 世界文化遺産「なまはげ」巡り 参加者…39名

男鹿市の入口に建つ「巨大なまはげ」を眺めて記 念撮影をし、男鹿半島の付け根にある標高355m

の寒風山へ。さえぎるもののない山頂からの360 度パノラマ風景は、半島や八郎潟の干拓地、日本 海の海岸線を眼下に一望でき、皆様に感動して いただけたと思います。

次に向かった「なまはげ館」は、男鹿石を多用 した外観と秋田杉をふんだんに使用した内装、案 内サインはモザイク作家の上哲夫氏によるもので、 館内には男鹿市内各地で実際に使われていた 150枚を超える多種多用ななまはげ面が勢ぞろい し、圧巻の迫力で感嘆の声が聞こえました。伝承 館では大晦日のなまはげ行事の再現・実演を体 験していただき、その後北緯40度ラインにある入 道崎を散策し、昼食は魚介の入った桶鍋に400 度に熱した石を投入して調理する「石焼鍋」を、日 本海と青空を眺めながらご賞味いただきました。な まはげ三昧のコース。楽しんで頂けたのではないで しょうか。 (佐藤紘一/秋田中央建築士会)

白瀬南極探検隊記念館では探検隊やオー ロラの映像を観ていただき、南極の氷の溶ける 音に耳を澄ましたり、隕石を手にその重さに驚 いた方もおられました。また、当時の毛皮製の 防寒具に触れて、探検隊の厳しい旅に感嘆し ておられました。

蚶満寺は松尾芭蕉も訪れたところです。ガイ ドさんの力強い解説にやや圧倒されつつも、 歴史や七ふしぎ伝説等に聞き入りました。境 内前に拡がる九十九島の景観を観ながら散 策し、芭蕉の句に登場する「西施像」の前では しばし思いをはせる参加者の皆様でした。あい にくの曇り空で九十九島の成因となる鳥海山 の雄姿を観ことができなかったのが残念でした。 (高橋幸治/由利建築士会)

Eコース 国の登録有形文化財を 活用した事例に触れる

参加者…31名

築70年を経て往時のたたずまいのままの校舎 をめぐり、木育をめざした「おもちゃ美術館」の 今を観ていただきました。すべり台の下の木の どんぐりのプールでは足を踏み入れる参加者も あり、木のぬくもりを感じていただいたかと思いま す。やや滞在時間が短くなってしまい、もっと ゆっくりまわりたかったとの声がありました。



Eコース (蚶満寺 本堂)



Dコース (男鹿なまはげ像前)



Dコース (入道崎 昼食)



Eコース(鳥海山木のおもちゃ美術館)



Dコース(昼食 石焼鍋実演)



Dコース(入道崎)



Eコース(鳥海山木のおもちゃ美術館)



Eコース(蚶満寺 境内)

Fコース 「みちのくの小京都 角館」 ~江戸時代の武家町さんぽ~

参加者…88名

秋田でも屈指の観光地「角館」のまち歩きを 中心にした満員御礼のコースとなりました。

秋田市内をバスで出発し、まずは角館への 道中にある「門脇木材」の工場見学へ。「木は 全部使い切る」という精神のもと、原木が製材 や燃料用チップになっていく様子を見学しまし た。まさに我々の仕事に直結した製品ができ上 がっていく様子に質問が相次ぎました。途中、 安藤醸造北浦本館にて名物の醤油ソフト等 で休憩をとりながら角館の街へ。

人気観光地といえども小さな街、角館では 二手に分かれ、昼食場所や見学の時間帯を 変える等の工夫をしながら東北最古と言われ る安藤醸造の煉瓦造りの蔵や、「かくのだて歴 史案内人」のお話を聞きながら、黒塀が続く 武家屋敷通りを散策しました。全国の建築士 を前に説明に熱が入り、自由時間が少なくなっ てしまったのが残念です。コースの中で行き届 かない場面もあったかと思いますが、参加者の 皆様には心よりお礼申し上げます。

(鈴木有扶子/仙北建築士会)

Gコース 商家のまちなみと内蔵の探訪 参加者…28名

横手市増田は江戸時代から商人の町として栄 え、明治から昭和30年代にかけて建てられた 商家、家屋が評価され、2013 (平成25) 年に 重要伝統的建造物群保存地区に選定されま した。そのまちなみと内蔵の探訪は全国各地か ら28名の参加で実施されました。

見学は公開されている中から、日の丸醸造 本社、重要文化財旧松浦家住宅、重要文化 財佐藤家住宅、横手市指定文化財旧石田 理吉家、横手市増田まんが美術館としました。 建築士の探求心と、ぜひこれは見ていただきた いと思われる建物を選定し、2班に分け、見学 場所では、さらに各班を3つに分けて、参加者 に説明がいきわたる配慮と効率の良い見学を 心がけて、横手建築士会会員は、先導と誘導、 各建物での説明と参加者と同数ほどのスタッ フ、加えて地元のNPO増田地域活性化ス テーションの協力もいただき対応させていただ きました。

旅の楽しみの昼食も「くらを」で、発酵のまち 横手にふさわしい食材を堪能していただけたと 思います。 (鈴石博実/横手建築士会)

Hコース 白井晟一 秋田時代を探る

参加者…57名

出発点の秋田市より南へ最も遠い湯沢雄勝 地域には白井晟一氏の昔の建物が多く存在 しております。全国から57名の建築士に参加 いただき、バス2台の大所帯で楽しく行程を終 了することができました。

湯沢市街地の「四同舎」から「試作小住 宅」雄勝地区へ向かい、稲住温泉より「旧秋 ノ宮役場~浮雲~琅玕席」と、タイトなスケ ジュールではありましたが白井作品の代表的 な建物を探訪することができました。白井先生 の根強いファンの方々が多くお越し頂き、解説 する清水川氏より詳しい方もおられて大変賑 やかに交流することもできました。

湯沢市は豪雪地帯のために建物の一部が 破損していることを非常に残念に思う方もおら れ、存続していくことの難儀さと課題も話題にあ がることにより、古き良き時代を語り合い、湯沢 雄勝の未来志向の旅を堪能することができま した。

ぜひこれを機会に稲住温泉をはじめとする 湯沢市の地場観光資源も含めて語り継いで いけたら幸いです。

(由利 靖/湯沢雄勝建築士会)



ス(門脇木材)



Fコース(門脇木材工場内)



Fコース (安藤醸造店前)



Fコース (角館武家屋敷 散策)



Gコース(増田まちなみ散策)



Gコース(旧松浦家住宅)



Gコース (日の丸醸造本社)



Gコース (増田まんが美術館)



Hコース (四同舎前で)



Hコース (四同舎 階段)



Hコース(稲住温泉離れ3室)



Hコース(高久酒造茶室)

秋田セッション

日時…令和4年10月14日(金)8:50~11:50

会場…国際教養大学 図書館

参加者…145名

秋田杉と傘型屋根の「ブックコロセウム」

~設計担当者が案内する「国際教養大学図書館の見学」~



国際教養大学講堂にて事前説明

秋田セッションでは、本施設の設計担当者で ある(株)環境デザイン研究所 管理建築士・ ゼネラルマネージャーの野村朋広氏を講師に 迎え、2008 (平成20) 年3月に完成した「国際 教養大学図書館」について説明を受けた後、 施設見学を行いました。

国際教養大学の特徴

国際教養大学は、秋田市南部の閑静で豊か な森に囲まれたエリアに位置する公立大学で す。2004 (平成16) 年に開学以来、すべての講 義を英語で行うほか、1年間の留学義務があ るなど独自のカリキュラムを展開しており、全国 各地から多様な学生が集まり、卒業生も世界

各地で活躍しています。

また、大学周辺に学生宿舎や教員宿舎が 配置されており、学修・居住一体型キャンパス を大学の理念のひとつとしています。

24 時間 365 日開館の図書館

学修・居住一体型キャンパスを支える施設とし て、学生たちの学ぶ意欲に応え、いつでも時間 の制約なく勉強に集中できる環境を提供する ため、国際教養大学の図書館は眠ることがあり ません。

「本のコロセウム」をテーマに「本と人との出会 いの場となる劇場空間」としてデザインされたこ の図書館は、24時間365日、学生たちが本と向

き合い、勉学に打ち込む「知の闘技場」となって おり、洋書を中心とした段状の半円形大空間 「グレートホール」と、和書を中心とした1階のリー ディングスペースから空間が構成されています。

秋田杉による新しい木造空間

半径22mの半円形の大空間には、木造伝統 工法と小径木の製材を組み合わせた合成梁 による新しい木構造システムが用いられていま す。外周部の鉄筋コンクリート壁と中央にある 6本の杉材 (300φ) による集合柱を基点とし、 中間部分に半円形の鉄骨トラス梁を架けること で木造部分の架構スパンが短く計画された、 全体として合理的なハイブリット構造が形成さ れ、美しい秋田杉と伝統技術を生かした傘型 屋根が織りなす落ち着きと安らぎのある空間と なっています。

本来であれば、多くの大会参加者に見学し ていただきたい秋田を代表する建築でありまし たが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止 のため、また、静寂な学習・研究環境を保持 するため、多くの参加希望者をお断りしなけれ ばならなかったことを改めてお詫び申し上げま す。普段は一般利用者の受入れを行っている 施設ですので、どうぞ次回来秋された折りには、 美しい図書館で時間を過ごしてください。

(能上 崇/秋田中央建築士会)







参加人数一覧

| | 10月14日(金) | | | | | | | | 10月15日(土) | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------|-----------|----------|----------|-----|-----|-----|-----|-----|-----------|-----|-----|-----------|-----|------|-------------|-----------|-------------------|----|----|----|----|-----|----|----|
| 都道府県 | 大会 | 大会 | 記念 | 大交 | | ⑥秋田 | | | | | セッシ | ノヨン | | | | | 地域交流見学会(エクスカーション) | | | | | | | |
| | 参加 | 式典 | 対談 | 流会 | 昼食 | ション | ⑦青年 | ⑧女性 | ⑨ 景·街 | ⑩福祉 | ⑪防災 | ⑫ 歴·HM | ③建築 | 14環境 | (§まち づくり | ⑩情報 部会 | Α | В | С | D | E | F | G | Н |
| 北海道 | 86 | 81 | 66 | 77 | 36 | 0 | 21 | 11 | 2 | 1 | 4 | 6 | 23 | 0 | 1 | 2 | 2 | 1 | 3 | 0 | 0 | 2 | 1 | 1 |
| 青森県 | 67 | 67 | 37 | 52 | 24 | 0 | 1 | 1 | 2 | 0 | 0 | 5 | 1 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 岩手県 | 96 | 96 | 66 | 35 | 29 | 0 | 1 | 4 | 3 | 0 | 1 | 10 | 1 | 1 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 6 |
| 宮城県 | 40 | 38 | 10 | 9 | 0 | 0 | 3 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 2 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 2 | 1 |
| 秋田県 | 234 | 18 | 11 | 15 | 217 | 14 | 2 | 2 | 4 | 1 | 1 | 8 | 1 | 1 | 1 | 1 | 17 | 9 | 6 | 7 | 7 | 26 | 13 | 11 |
| 山形県 | 96 | 96 | 29 | 3 | 19 | 0 | 4 | 7 | 1 | 2 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 4 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 福島県 | 104 | 75 | 28 | 3 | 4 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 茨城県 | 96 | 96 | 14 | 9 | 3 | 1 | 1 | 0 | 2 | 0 | 0 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 栃木県 | 68 | 68 | 4 | 0 | 4 | 0 | 0 | 2 | 0 | 1 | 2 | 3 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 群馬県 | 49 | 38 | 12 | 2 | 4 | 2 | 2 | 0 | 3 | 2 | 1 | 3 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 3 | 0 | 0 |
| 埼玉県 | 106 | 93 | 76 | 8 | 0 | 3 | 4 | 1 | 7 | 0 | 1 | 3 | 2 | 0 | 2 | 1 | 0 | 2 | 8 | 0 | 0 | 17 | 0 | 2 |
| 千葉県 | 97 | 80 | 51 | 16 | 32 | 14 | 9 | 1 | 6 | 5 | 2 | 3 | 4 | 0 | 0 | 0 | 12 | 8 | 3 | 4 | 10 | 7 | 1 | 5 |
| 東京都 | 57 | 54 | 44 | 41 | 16 | 2 | 15 | 5 | 3 | 6 | 2 | 5 | 1 | 11 | 4 | 1 | 2 | 7 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 5 |
| 神奈川県 | 62 | 53 | 40 | 29 | 22 | 9 | 7 | 4 | 3 | 2 | 7 | 12 | 3 | 3 | 4 | 1 | 2 | 0 | 1 | 2 | 1 | 4 | 4 | 3 |
| 新潟県 | 46 | 45 | 13 | 7 | 4 | 2 | 1 | 0 | 1 | 2 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | 1 |
| 富山県 | 19 | 19 | 11 | 12 | 0 | 4 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 石川県 | 32 | 32 | 14 | 1 | 2 | 0 | 0 | 8 | 0 | 0 | 1 | 4 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 福井県 | 16 | 16 | 2 | 1 | 0 | 0 | 5 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 山梨県 | 76 | 76 | 1 | 1 | 1 | 1 | 10 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 長野県 | 26 | 15 | 13 | 2 | 5 | 1 | 5 | 0 | 4 | 0 | 2 | 2 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 |
| 岐阜県 | 31 | 31 | 23 | 6 | 7 | 5 | 1 | 1 | 3 | 1 | 1 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 3 | 1 |
| 静岡県 | 73 | 73 | 2 | 55 | 65 | 3 | 9 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 2 | 6 | 6 | 7 | 3 | 3 | 4 |
| 愛知県 | 58 | 37 | 29 | 2 | 7 | 2 | 6 | 4 | 0 | 2 | 2 | 6 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 7 | 4 | 0 | 1 | 0 |
| 三重県 | 40 | 35 | 26 | 1 | 28 | 2 | 0 | 1 | 0 | 3 | 1 | 1 | 3 | 1 | 3 | 0 | 0 | 1 | 2 | 0 | 0 | 18 | 0 | 0 |
| 滋賀県 | 17 | 17 | 2 | 3 | 0 | 0 | 6 | 1 | 1 | 1 | 0 | 2 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 京都府 | 49 | 42 | 22 | 18 | 15 | 6 | 3 | 2 | 0 | 1 | 2 | 5 | 3 | 0 | 3 | 1 | 6 | 5 | 0 | 0 | 0 | 3 | 1 | 7 |
| 大阪府 | 46 | 46 | 39 | 29 | 22 | 5 | 1 | 3 | 4 | 3 | 2 | 4 | 2 | 4 | 3 | 5 | 0 | 2 | 0 | 4 | 3 | 2 | 3 | 4 |
| 兵庫県 | 38 | 26 | 20 | 11 | 10 | 1 | 4 | 1 | 0 | 0 | | 9 | 1 | 0 | 3 | 2 | 0 | 2 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 2 |
| 奈良県和歌山県 | 34 75 | 30 75 | 13 11 | 50 | 62 | 2 | 7 | 0 | 1 | 0 | 1 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 8 | 0 | 0 |
| 鳥取県 | 30 | 24 | 9 | 0 | 8 | 1 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 3 | 6 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 島根県 | 6 | 6 | 3 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 岡山県 | 20 | 20 | 15 | 11 | 2 | 2 | 1 | 0 | 1 | 0 | 4 | 1 | 2 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 1 |
| 広島県 | 21 | 19 | 17 | 13 | 10 | 8 | 1 | 1 | 1 | 0 | 3 | 3 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 3 | 3 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 |
| 山口県 | 40 | 40 | 31 | 13 | 21 | 10 | 3 | 6 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 11 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| 徳島県 | 23 | 19 | 9 | 2 | 5 | 3 | 4 | 1 | 1 | 2 | 2 | 1 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 香川県 | 36 | 36 | 36 | 7 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 愛媛県 | 50 | 48 | 20 | 29 | 2 | 0 | 13 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 高知県 | 21 | 6 | 5 | 0 | 2 | 5 | 4 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 福岡県 | 24 | 24 | 14 | 14 | 0 | 1 | 1 | 0 | 3 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 佐賀県 | 36 | 31 | 30 | 16 | 4 | 12 | 16 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 長崎県 | 16 | 16 | 10 | 8 | 9 | 0 | 2 | 1 | 1 | 2 | 0 | 2 | 3 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 |
| 熊本県 | 47 | 47 | 13 | 5 | 5 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 1 | 2 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 大分県 | 34 | 33 | 13 | 20 | 5 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 6 | 2 | 1 | 0 | 3 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 | 0 | 0 |
| 宮崎県 | 28 | 28 | 28 | 5 | 4 | 3 | 2 | 0 | 2 | 1 | 1 | 5 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 |
| 鹿児島県 | 50 | 46 | 38 | 36 | 27 | 4 | 3 | 1 | 3 | 1 | 3 | 4 | 2 | 2 | 1 | 1 | 2 | 8 | 0 | 5 | 1 | 7 | 2 | 3 |
| 沖縄県 | 45 | 43 | 22 | 20 | 38 | 15 | 1 | 1 | 7 | 0 | 2 | 11 | 9 | 1 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 連合会 | 32 | 28 | 1 | 24 | 10 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| その他 | 184 | 61 | 3 | 45 | 6 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 6 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 当日参加 | 29 | 16 | 10 | 1 | 0 | 0 | 4 | 0 | 1 | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 参加者計 | 2,706 | 2,159 | 1,056 | 773 | 805 | 145 | 198 | 75 | 81 | 44 | 68 | 157 | 90 | 33 | 48 | 23 | 47 | 70 | 36 | 46 | 38 | 114 | 41 | 68 |

表彰者のご紹介

令和4年度 連合会会長表彰者

| 77H 4 11/ | 文 连口云云] |
|-----------|---------------|
| 士会名 | 氏名 |
| 北海道 | 大武武博 |
| | 庵 敏幸 |
| | 井上勝己 工藤美智子 |
| | 工廠天育丁 飛鷹嘉弘 |
| 青森 | 小山内誠 |
| 日外 | 高村健悦 |
| 岩手 | 田老雄一 |
| | 谷藤一彦 |
| | 菅原紀昭 |
| 秋田 | 加藤一成 |
| | 菅原文雄 |
| 1 774 | 早山政美 |
| 山形 | 高橋政広 |
| 福島 | 荒木良弘 |
| 怕局 | 菅原正晴 田浦英典 |
| | 渡部喜也 |
| 茨城 | 根本勝義 |
| 7.77 | 鈴木啓之 |
| | 小貫廣利 |
| 栃木 | 竹内幹夫 |
| | 髙内良介 |
| | 大金 清 |
| 群馬 | 長谷川浩子 |
| | 河本榮一 田中信子 |
| 埼玉 | 松野輝雄 |
| 利正 | 山田鉄也 |
| 千葉 | 山中一郎 |
| | 田村保人 |
| | 加藤 仁 |
| 東京 | 木村勇治 |
| | 八田創 |
| | 森田美紀 大坂岳志 |
| | 加藤陽介 |
| | 蕪木孝典 |
| | 笠井香澄 |
| 神奈川 | 澤田晃一 |
| | 井上憲二 辻谷忠臣 |
| | 松尾稜威 |
| 山梨 | 利根川康夫 |
| | 渡辺善文 |
| | 若狭美穂子 |
| 長野 | 井出正臣 |
| | 臼田幸夫 窪寺弘行 |
| 新潟 | 宮村政吉 |
| A91 (100) | 原田久雄 |
| | 山岸栄一 |
| 静岡 | 鈴木純哉 |
| 愛知 | 伊豫田健児 |
| | 尾関 浩 |
| | 杉原尚子 |
| | 杉浦盛夫 三宅和彦 |
| 岐阜 | 松井博幸 |
| -,,,,,, | 和仁正明 |
| 三重 | 佐野功児 |
| | 三谷久夫 |
| 富山 | 小泉美江子 |
| | 土倉範行 |
| | 長島 修 |

| 表彰者 | |
|-----------|---------------|
| 士会名 | 氏名 |
| 石川 | 奥下建一 |
| | 北村清成 |
| | 宮本良和 |
| 福井 | 脇本淳子 |
| 滋賀 | 木下幸玉 |
| 京都 | 金森保則 |
| | 椿森昌史 |
| | 大村利和 |
| 大阪 | 桑原宏明 |
| | 田鍋稔 |
| | 荻窪伸彦 髙原浩之 |
| 兵庫 | 戎 孝之 |
| 六年 | 野上伸二 |
| | 永井英三 |
| 奈良 | 峠 政和 |
| | 上平久居 |
| 和歌山 | 藍畑春雄 |
| | 中村静男 |
| 鳥取 | 由宇正実 |
| | 戸田雅之 |
| 島根 | 足立正智 |
| | 常松光政 |
| bet . I . | 尾川隆康 |
| 岡山 | 山名千代 谷岡龍哉 |
| | 森下真典 |
| 広島 | 松本浩一 |
| | 篠部 裕 |
| 山口 | 今井徹也 |
| | 河野良輔 |
| | 藤井孝造 |
| 徳島 | 手城 司 |
| | 徳長正俊 賀治隆志 |
| 香川 | 木村浩司 |
| H //I | 池田裕美 |
| | 藤田 薫 |
| 愛媛 | 花岡直樹 |
| | 小原文子 |
| | 松平定真 |
| 高知 | 前田佳男 |
| 福岡 | 五元信明 上村公仁隆 |
| 田川 | 内野英雄 |
| | 廣田栄作 |
| 佐賀 | 城島正信 |
| | 江島信行 |
| 長崎 | 荒木由美 |
| AR. I. | 上山信宏 |
| 熊本 | 生田健一 |
| 大分 | 後藤 悟 |
| | 渡邉賢一 竹尾憲和 |
| 宮崎 | 椿 達夫 |
| | 岩浦厚信 |
| 鹿児島 | 中留和美 |
| • | 下園政喜 |
| | 山内信清 |
| 沖縄 | 伊東 亮 |
| | 前里悦子 |
| | |

令和4年度 伝統的技能者表彰者

| 士会名 | 氏名 | 職種 |
|-----|------|---------------|
| 北海道 | 加藤和紀 | 大工 |
| 宮城 | 伊藤正男 | 建築大工 |
| 秋田 | 齋藤鐵雄 | 溶接工 |
| 群馬 | 鈴木始郎 | 天然木材特殊加工 |
| 神奈川 | 鈴木 篤 | 建築設計(社寺·伝統建築) |
| 新潟 | 成田一郎 | 設計監理 |
| 愛知 | 近藤勝也 | 建築大工 |
| 富山 | 髙見雅志 | 建築大工 |
| 福井 | 畑 宣雄 | 建築大工 |
| 大阪 | 大谷哲秀 | 神社仏閣錺金具製作販売 |

| 士会名 | 氏名 | 職種 |
|-----|------|------|
| 和歌山 | 福山藤次 | 造園業 |
| 鳥取 | 池内博人 | 建築大工 |
| 岡山 | 佐田時信 | 建具業 |
| 広島 | 河野和夫 | 建設業 |
| 高知 | 芝 利忠 | 建築大工 |
| 福岡 | 高野政則 | 現場監督 |
| 熊本 | 鳩野喜一 | 大工 |
| 大分 | 佐伯 直 | 曳家 |
| 鹿児島 | 濵﨑博文 | 塗装工 |
| | | |

令和4年度70周年記念全国大会永年勤続職員表彰者

| 士会名 | 氏名 |
|-------------|-------|
| (一社)北海道建築士会 | 秋吉利香 |
| (一社)北海道建築士会 | 池田美穂 |
| (一社)青森県建築士会 | 風晴智順 |
| (一社)青森県建築士会 | 福井節子 |
| (一社)青森県建築士会 | 中村美穂子 |
| (一社)山形県建築士会 | 三浦秋夫 |
| (公社)福島県建築士会 | 岸波 徹 |
| (一社)千葉県建築士会 | 渡邉昌文 |
| (一社)千葉県建築士会 | 黒澤 豊 |
| (一社)東京建築士会 | 内野幸雄 |
| (一社)東京建築士会 | 荻谷 哲 |
| (一社)東京建築士会 | 遠藤智之 |
| (一社)東京建築士会 | 佐竹紀代美 |
| (一社)東京建築士会 | 梅津洋佑 |
| (一社)山梨県建築士会 | 鈴木勇次 |
| (一社)山梨県建築士会 | 河西恵梨 |
| (一社)新潟県建築士会 | 宮沢順子 |
| | |

| 一到心境关系 | |
|---------------|-------|
| 士会名 | 氏名 |
| (一社)新潟県建築士会 | 本田友美 |
| (公社)静岡県建築士会 | 山本 都 |
| (公社)愛知建築士会 | 大木恵子 |
| (一社) 三重県建築士会 | 大西俊隆 |
| (一社)三重県建築士会 | 星山久美子 |
| (一社)福井県建築士会 | 小林淑美 |
| (一社)京都府建築士会 | 進藤有紀 |
| (公社)兵庫県建築士会 | 中島 修 |
| (公社)兵庫県建築士会 | 桂 美紀子 |
| (一社)島根県建築士会 | 松島純代 |
| (公社)愛媛県建築士会 | 大西勝秀 |
| (公社)福岡県建築士会 | 末永美穂 |
| (一社)佐賀県建築士会 | 光武啓子 |
| (一社)長崎県建築士会 | 富永 斉 |
| (公社)大分県建築士会 | 穴井輔嘉 |
| (一社)宮崎県建築士会 | 海老原邦子 |
| | |

第2回 建築作品賞受賞者

U40建築賞

| 受賞名 | 作品名称 | 筆頭設計者 | 士会名 | 共同設計者 | 士会名 |
|----------|-----------------------------|-------|-----|-------|-----|
| I-1 居住·生 | 活空間系の建物 | | | | |
| 優秀賞 | スイシャハウス・スイシャオフィス | 古谷俊一 | 東京 | | |
| 奨励賞 | カメハウス (TRUSST BLOCK lot.07) | 亀崎義仁 | 沖縄 | | |
| U40建築賞 | 台地のFORTE | 佐藤達保 | 大阪 | | |
| U40建築賞 | 京都・古家を取り込む増築 | 野村直毅 | 大阪 | | |
| I-2 教育·文 | 化・医療・福祉系の建物 | | | | |
| 大賞・ | 風突のケアハウス | 中村拓志 | 東京 | | |
| 優秀賞 | | | | | |
| 奨励賞 | 小郡幼稚園 | 竹原義二 | 大阪 | | |
| 奨励賞 | 枚方市総合文化芸術センター | 江副敏史 | 大阪 | 小畑 香 | 大阪 |
| | | | | 芳木達彦 | 大阪 |
| 奨励賞 | みんなの診療所 | 松山将勝 | 福岡 | | |
| I-3 商業・業 | 務・交通系・宿泊・その他の建物 | | | | |
| 優秀賞 | 尼崎パーキングエリア | 納谷 学 | 東京 | | |
| 奨励賞 | 大船渡消防署住田分署 | 安原 幹 | 東京 | | |
| | | 日野雅司 | 東京 | | |
| | | 栃澤麻利 | 東京 | | |
| | | 佐藤 淳 | 東京 | | |
| 奨励賞 | 延岡駅周辺整備プロジェクト | 乾 久美子 | 東京 | 松下 宏 | 宮崎 |
| 奨励賞 | 京丹波町役場 新庁舎 | 松本洋平 | 東京 | 高橋愛子 | 東京 |
| | | | | 長谷川祥久 | 東京 |
| | | | | 萩生田秀之 | 東京 |
| | | | | 南井克夫 | 東京 |
| | | | | 安田哲也 | 兵庫 |
| | | | | 安井 昇 | 東京 |
| Ⅱ リノベーシ | /ョンによる建物 | | | | |
| 奨励賞 | 吉田村 Village | 慶野正司 | 栃木 | | |
| 奨励賞・ | 丹生川の古民家 | 鳥野良子 | 京都 | | |